

第76回福島県高等学校PTA連合会

郡山大会集録

「継続」と「挑戦」

～これまでとこれからと新たな子どもたちの未来へ～



郡山布引風の高原【R07の写真】

と き 令和8年6月2日（火）・3日（水）

と ころ ホ テ ル ハ マ ツ

主 催 福島県高等学校PTA連合会

後 援 福島県教育委員会

郡山市教育委員会

日本教育公務員弘済会福島支部

大会事務局 福島県立光南高等学校

目 次

あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
大会次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
開会・表彰・アトラクション・・・・・・・・・・	5
第76回福島県高等学校PTA連合会郡山大会来賓名簿・・・・・	7
令和8年度福島県高等学校PTA連合郡山大会顕彰者名簿・・・・・	8
講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
各分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
第1分科会（総務委員会）・・・・・・・・・・	27
第2分科会（進路委員会・就職）・・・・・	33
第3分科会（進路委員会・進学）・・・・・	38
第4分科会（健全育成委員会）・・・・・	43
第5分科会（調査広報委員会）・・・・・	52
第76回郡山大会 役員名簿・・・・・・・・・・	60

ごあいさつ



福島県高等学校P T A連合会

会長 佐藤 理広

皆様、こんにちは。私はこの度、福島県高等学校P T A連合会会長に就任いたしました、安積黎明高校P T A会長の佐藤理広と申します。本日ご参加の皆様におかれましては、日頃より各校単位でのP T A活動を始め、当連合会活動へのご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さらに、本日はそうそうたるご来賓の皆様にご隣席いただき、改めて身の引き締まる思いであると同時に、この郡山大会の大成功を確信しております。これは、すでに郡山大会のために昨年から丁寧な話し合いを重ね、準備に奔走されてきた準備委員会の皆様、県高P連事務局の皆様の皆様のご尽力のおかげと深く感謝申し上げます。

先ほど行われた総会におきまして、新年度体制がスタートいたしましたが、後継役員事務局の皆様、及び各校P T A役員の皆様のお力添えをいただきながら、精一杯尽力して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて皆様は、P T Aについてどんな団体だと感じているのでしょうか。地域団体、慈善団体、福祉団体だと考える方もいるし、市民団体、圧力団体、政治団体と考える

方もいらっしゃいます。それだけP T Aに対するイメージは、人それぞれなのだと思います。そこで今回この郡山大会を通し、親睦団体にしたいと思います。福島県で高校生活を送っている子供たちに必要なことは3つ、健全な成長、適切な進路、誇りを持てるふるさとです。成人年齢が18歳になった今、我々保護者が子供たちに積極的に関わることができるのも高校生の間です。そんな中P T Aは、保護者が孤独にならず、教師が萎縮せず子供たちのためにそれぞれの役割をバランスを持って果たしていくために、父母と教師が仲良く情報交換ができる親睦団体だと良いと思っています。親と先生がニコニコすれば、子供もニコニコする。そこで、私は常に3つ心がけていることがあります。楽しくやる、無理なくやる、ちゃんとやるです。どれも欠けてはいけない大切な要素だと思います。ぜひ、この場にお集まりの皆さんに、この3つを共有できればと思います。

最後になりますが、本日明日のプログラムの中で、ぜひ楽しく無理なくちゃんとやってみましょう。私も微力ながら、ちゃんとやっていきたいと思っています。今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

歓迎のあいさつ



第76回福島県高等学校 P T A 連合会郡山大会 大会実行委員長 砂川 信一

皆さん、こんにちは。郡山大会実行委員長の光南高等学校P T A会長の砂川信一です。どうぞよろしくお願いいたします。

ご来賓の皆様、本日はご臨席賜りまして誠にありがとうございます。先程は、会長よりご挨拶をいただき本当にありがとうございます。さらには、ご参会の皆様、運営に携わって頂いた各校のP T A会長さん、先生方、本当にありがとうございます。

この第76回郡山大会も無事成功するだろうと私は確信しております。本日は、久保木先生の講演やアトラクション、明日は分科会と大変世話になります。

簡単ではございますが、挨拶とかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

大 会 次 第

第1日目 6月2日（火） <受付 12:30～>

- 1 開式のことば 13:00
- 2 福島県高等学校PTA連合会会長あいさつ
- 3 大会実行委員長あいさつ
- 4 表彰
- 5 受賞者代表謝辞
- 6 来賓祝辞
 - ① 福島県知事（県中地方振興局長兼復興支援・地域連携室長 代読）
 - ② 郡山市長（郡山副市長 代読）
 - ③ 福島県教育委員会教育長（福島県教育庁参事 代読）
 - ④ 福島県高等学校長協会長
- 7 来賓紹介
- 8 祝電披露
- 9 閉式のことば
- 10 アトラクション
福島県立光南高等学校 チアリーダー部
- 休憩 14:35
- 11 講演 15:00
 演題 「豊を後世に、豊を世界へ 久保木豊店の挑戦」
 講師 久保木豊店 代表取締役 久保木 史朗 氏
- 休憩 16:30
- 12 教育懇談会 18:00

第2日目 6月3日（水） <受付 8:30～>

- 1 専門委員会・分科会（前半） 9:00
- 休憩 10:00
- 2 専門委員会・分科会（後半） 10:15
- 3 閉会式（各分科会） 11:15

※分科会会場

分 科 会 名	会 場
第1分科会（総務委員会）	福寿
第2分科会（進路対策委員会・就職）	チェルシー
第3分科会（進路対策委員会・進学）	メフィア
第4分科会（健全育成委員会）	開成
第5分科会（調査広報委員会）	白鳳

開会・表彰・アトラクション

【開会式】



福島県高等学校 PTA 連合会
会長あいさつ

来賓あいさつ



福島県知事



郡山市長



福島県教育委員会 教育長



福島県高等学校長協会 会長

※来賓あいさつについては代読もあります

【表彰式】



感謝状授与 代表
福島県高等学校 PTA 連合会
前会長 幕田 様



令和7年度広報誌コンクール
優秀賞代表校
いわき湯本高等学校 PTA 様

【アトラクション】

全国上位を目指し、日々練習に励んでいる、光南高校チアリーダー部「Red Phoenix」によるチアダンスが披露されました。元気いっぱい力強いパフォーマンスは、会場に明るい雰囲気をもたらし、観客に大きな元気と笑顔を届けてくれました。



I 第76回福島県高等学校PTA連合会郡山大会来賓名簿

職 名 等		氏 名
福 島 県		
1	知 事	内 堀 雅 雄
郡 山 市		
2	市 長	椎 根 健 雄
福 島 県 教 育 委 員 会		
3	教 育 長	鈴 木 竜 次
郡山市教育委員会		
4	教 育 長	早 崎 保 夫
福島県教育庁		
5	社会教育課長	遠 藤 裕 一
福島県高等学校長協		
6	会 長	丹 野 純 一

(順不同・敬称略)

Ⅱ 令和８年度福島県高等学校PTA連合会郡山大会顕彰者名簿

1 顕彰規定第３条による感謝状贈呈者 ※所属校は令和７年度現在（敬称略）

No	所 属 校	氏 名	
1	安積黎明高等学校	幕田 宙晃	会長
		遠藤 誠	理事・県連事務局次長
2	二本松工業高等学校	鈴木 守	副会長・県北地区会長（進路対策委員長）
		川島 孝夫	理事・県北地区事務局校長
		松本 史浩	理事・県北地区会事務局長
3	福島商業高等学校	武井 史子	理事（健全育成副委員長）
		荒木 智	理事
4	あぶくま柏鵬高等学校 （船引高等学校）	橋本 芳和	副会長・県南地区会長（健全育成委員長）
		田母神 賢一	理事・県南地区会事務局校長
		山崎 元康	理事・県南地区会事務局長
5	光南高等学校	小林 奨	理事（調査広報副委員長）
		吉田 葉子	理事
6	安積高等学校	根本 重朋	監事
7	会津西陵高等学校	柏木 登	副会長・会津地区会長（健全育成副委員長）
8	会津農林高等学校	長谷川 弘	理事（進路対策副委員長）
9	小名浜海星高等学校	杉山 広美	副理事・いわき地区会長（調査広報委員長）
		星 輝光	理事・いわき地区事務局校長
		中隈 利恵	理事・いわき地区会事務局長
10	平工業高等学校	猪狩 光央	理事
11	いわき光洋高等学校	國井 直美	監事
12	ふたば未来学園 中学校・高等学校	伊藤 順朗	副会長・相双地区会長（健全育成副委員長）
		對馬 俊晴	理事・相双地区会事務局校長
		小宅 都雄	理事・相双地区会事務局長
13	小高産業技術高等学校	坂津 寛則	理事

2 県高P連広報紙コンクール表彰状贈呈校

No	学 校 名	紙 名	備 考
1	伊達高等学校	あぶくま 2025Vol.00	東北コンクール・優良賞
2	若松商業高等学校	「明浄」 No. 78	東北コンクール・奨励賞
3	いわき湯本高等学校	「PTA News」 Vol.6	東北コンクール・優良賞

講 演

演 題：「畳を後世に、畳を世界へ 久保木畳店の挑戦」

講 師：有限会社久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗（くぼき ふみお）氏

講師略歴

久保木様は須賀川市のご出身で、伝統的な畳の技術を守りながら現代の暮らしや海外文化に合う「新しい畳」の可能性を追求されております。自社工場を改装し、日本初の畳の体験型複合施設「畳ビレッジ」を開業しました。地域の子供たちの工場見学や観光客のワークショップなど年間1万人以上に畳の魅力を発信しています。また、東京銀座のショールームやニューヨークやロサンゼルス、パリでの活動を通して、世界50カ国に畳を届けています。本講演では、家族経営の小さな畳店が、畳文化の継承と新たな挑戦に取り組む実例を通して継承する大切さと未来への可能性についてお話をいただきました。



講演内容

〔ごあいさつ〕

はい皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました須賀川市から来ました、有限会社久保木畳店の代表の久保木史朗と申します。本日はよろしくお願いします。

まずは初めに、このような機会をいただきまして、ありがとうございます。安積高校の森下校長先生をはじめ、皆様方からの推薦をいただいたと聞いております。そして、今の福島教育、地域を担う皆様方の前でこのような機会が、私が言えることが何かっていると悩んでいたのですが、あの等身大の話をできればと思っていますので、よろしくお願いします。

本日はですね、こんな形でお話をさせていただきたいと思っていまして、4つ。1つ目が畳に未来はないのかあるのかというところ。そして（2つ目）畳を世界へ、そして（3つ目）須賀川を世界中から人が集まる街に、そして最後（4つ目）まとめ、としていきたいと思います。

〔自己紹介 ～ 畳に未来はあるのか〕

私は須賀川の出身でして、今39歳です。特に深い意味はないですが、歳相応の見た目かなと思うのですが（笑）。家業が畳屋です。久保木畳店。家族経営の小さなところなのですが、

もともと継ぐ気はなかったです。（一般的家庭の畳部屋の写真を提示して）これがイメージする和室、畳の部屋ですね。正直自分自身がこういう和室に住みたいと思えなかった。実家が畳屋なので、もう全部、畳の部屋です。ただですね、自分から積極的にこういう家には住みたいとは思えず。大学進学を機に上京したんですけども、畳の部屋じゃなくて、フローリングの部屋を選びました。その気持ちも皆さん解ると思います。そして、子供の頃、僕バスケットボールをやっていて、親が軽トラで迎えに行きます。（軽トラックに店名が大きく書かれている写真を提示して）それがすごくイヤでした。はい。普通の車で来て欲しい。その子供の気持ちも解ると思います。そういう形で、家業とか親の仕事に対しては、誇りを持っていましたが、じゃあ自分がやるかという、正直そこまで思えなかった、というのが現状です。それが今どうしてこういう形になっているのかということで、そういったストーリーをお話ししていきたいと思います。

須賀川市で育ちました私は、大学進学を期に上京しました。そして卒業後は都内で会社員をしていました。特に続きはなく、ただこれがしたいっていうものもあまり見つけられず、周りと同じように就職活動をして一般企業に勤めていました。そんな時、もう7年前ですね、2019年4月ゴールデンウィークに須賀川に帰省しました。これ普通にゴールデンウィークを利用して実家に帰ってきた、という感じです。その時に父からメモ書きを受け取りました。それが困難の元だったんですけども。そこには畳業界の厳しい現状や家業と苦悩が書かれていました。でもどうしたらいいかわからないという父の正直な気持ちが書いてありました。畳どんどん減っています。和室がどんどん減っています。今までのように例えば新規折込みチラシを入れても全然電話が鳴らないと。で、いろんな営業をしても仕事来ないと。ただもうどういう手を打っていいか、もうわからない、という感じでした。実際ですね。会社ですので、売上も利益も大事ですが、売上がどんどん下がって、赤字が出てしまっていました。当時、自分は東京で生活をしていて、サラリーマンをしていて、実家のこの状況を知りませんでした。自分自身も畳に対して、古臭くて時代遅れで厳しいのではないかという気持ちが正直ありました。大学生の時の一人暮らしでも、畳屋の息子ですら畳を選ばないという現状で。でも畳は自分を育てくれた原点であり、日本文化の礎でもあると。自分に何かできないか。ただただ自分もどうしていいかわからないというのが正直な気持ちでした。すぐに解決策が浮かぶわけでもなく、もやもやした気持ちを抱えたまま東京へ戻りました。

次に3ヶ月後、8月お盆休みにまた須賀川に入りました。その時、工場に行ってみました。端材を使って畳のコースターを作ってみました。まあサラリーマンやりながらですが、何か家業の畳に貢献できないかと思って作ってみました。（当時の写真を掲示して）あまりかっこよくはない感じですね。そんな様子を会社のSNSで発信していました。こうやって作ってみました、と言ったところ、結構アンケート取ったら欲しいっていう人が出ると。友達同士のSNSなので、本気がどうかかわからないんですけども、古臭いと思っていた畳が「欲しい」としてもらえるかも知れないと。それがとても嬉しかったです。その後も商品開発を重ね、SNSでも発信を続けました。すると、知り合いから連絡があって、お寿司屋さんなんですけど、畳

が欲しいと、畳コースターが欲しいと言っているという連絡がありました。東京の高級な寿司屋さんです。畳業界衰退していて、家業も赤字で未来がないと思っていた畳が、頑張れば欲しいと思ってもらえる、ということが、心から嬉しかったです。（映像に商品を映し出して）これがですね、初めて納品した畳コースターです。東京の高級店、いろんなブランド物や器も一流のものを使っています。そこに畳が使ってもらえるようになった、ということがすごく励みになりました。頑張れば家業を認めてもらえる、と畳業界に希望の光が見えました。そのお寿司屋さんに納品した翌日に、6年半勤めた会社に辞めますと上司に辞意を伝えて。そして2020年1月に久保木畳店に入社していました。須賀川に戻ってきました。6年半経ちました。その6年間の取り組みを今からご紹介したいと思います。

早速、挫折なのですけども。畳店やりますと、こちらやる気があって、畳、皆さんどうでしょうとかいう営業をしていると、何がいいのですか、っていう、まあこれは別に深い意味もなく、普通に率直な素朴な疑問として、何がいいのですかと聞かれました。その時自分はどうか答えたかという、畳は和の心です、と答えました。まあ、それっぽく聞こえると思うのですが、これって意味わかんないのですよ。それ何ですかっていう。何がいいのって聞かれて、和の心ですって。いや良さは何？・・・要はあの、伝えないと畳を買ってもらえないのです。これがいいですよ、あとあとこれで、っていう風に言えないと買ってもらえないという挫折を味わいました。まあ言われてみれば当たり前なのですけども、そこまで自分は出来てなくて。でも自分の畳への理解が浅いことが原因でした。畳の価値は何なのか。「う～ん、わかんないです」って言っていたら、畳は残れない。そこで畳を素材から学ぶたびに、藺草（いぐさ）の産地、熊本へ行きました。かつては広島や岡山も藺草の一大産地でしたが、これもうみんな辞めてしまって、なんとか熊本が頑張っていると。国内シェアの9割以上を占めています。熊本に行って、藺草農家さん、藺草を田んぼで育てていまして、その田んぼの手伝いに行きました。

（写真を提示して）これは私。そして後ろにあるのが藺草です。時期は夏です。もうそろそろ収穫が始まります。6月末から7月頭にかけて収穫時期なのですが、農家さんの藺草の収穫を手伝いに毎年行っています。そして農家さんと生活を共にしながら、畳の良さ、藺草の良さ、どういう価値があって、世の中にどういう価値の良さが提供できるか。そして未来はどうなっていくのかということをお教えもらいながら、毎年研修を重ねています。そこであったことなのですが、そもそも畳の藺草というのは、自然の恵みであるということ。これ畳の材料の藺草です。これを収穫して編んだものが畳になります。今まで自分は見たことがなくて、藺草のこういった姿、それで畳ってどうでしょうか、って言っている、それは説得力がない。毎年行くことによって、自分で胸を張って言えるように。そして畳は癒しの効果がある。これもなぜなのかというと、実際にこういった科学的な根拠があるということも、今まで知らなかったのですが、熊本に行って、田んぼに入って学びました。根拠を持って、皆さんに癒し、リラックスを届けられます。つまり普段コンクリートで囲まれていて、いろんなストレスがある社会から皆様の解放してくれます。家に帰るとゴロンとすると香りやその質感から癒されることができると。そして、日本のビデオを見ると本当に美しいです。そしてこの畳、藺草とい

うものが、蘭草農家さんの長年の努力と苦勞の結果だということを学びました。美しい床は皆さんの心を豊かにしてくれます。そして、経年美化、使えば使うほど味わいが出て、美しく変わっていくと。これがいい畳のポイントです。感動を与える床であるということ。これを農家さんから、（写真を指し示して）これが農家さんたちです。毎年学んでいます。この香り、経年美化、耐久性という。これがいい畳のポイントであって、畳には人の心を癒して、豊かにして、そして感動を与える力があります。（畳の傷んだ部屋の写真を示して）こういう和室、自分は住みたくないな、どうやったら伝えられるかな、っていう風に悩んでいたことがあったんですが、その答えは原点の蘭草の田んぼにあって、それが香りであって、美しさであって、耐久性。この床というものが人々に感動を与えたり、生活を豊かにしたりすると。それを、畳と云ったら何ですか、と言われれば、皆さんを豊かにしてくれる、暮らしを豊かにしてくれるものですよ、と言えるように、やっとなってこられたというのが経験上あります。そして和室がなくても、（いくつか写真を提示して）こういった沖縄畳ですとか、あとはこういったホテルの部屋というものも、最近は畳というものが着目されています。これはやっぱり日本の美しさというものもポイントにあると。そしてリラックスするということもある、と思います。ここで感じたのが、畳というのは衰退産業ではなくて、まだまだ伝え切れていない産業であるということ。今畳屋の自分自身が良さをわかってない。そりゃ伝わるわけがない。そしたらみんな誰も畳の部屋はいらなくなると。でもやっぱり自分自身は当事者である、自分が畳を学んで伝えていくとすれば、まだまだ未来は明るくなるのではないかと、ということを学びました。そこで自分は伝えるということを大事にしています。いろんなところに行っています。高齢者から小さいお子さんまで出張ワークショップをしたり、イベントに参加したりしながら、畳の良さは何か、どういったものがあるか。で、日本の伝統的なものがどういうものなのか、ということをお伝えする機会を、とにかく売り上げじゃなくて伝えるということを一番に大事にしています。ちなみに（写真の）左下は須賀川の清陵情報高校です。毎年1年に1回呼んでもらって、そこで出張のワークショップを生徒さんたちと一緒にしております。そういった形ですね、田んぼに入って学んで、そして発信することを広めようとした結果、6年経ちました。日本で一番いい畳というのが、『ひのさらさ』というブランド品です。熊本県内で取れた蘭草の中で上位0.5%。この『ひのさらさ』というものがありまして、これが一番良い。要は言い換えれば、農家さんの努力の結晶です。本当に手間暇かけて育てた蘭草というものが『ひのさらさ』という認定を受けます。（久保木畳店で）この取り扱いがどんどん増えていって、今では日本で一番この『ひのさらさ』の取り扱いを行いました。そして熊本県に呼んでもらって表彰していただいたんです。今までの農家さんも良い物を作っても売れなかったのです。畳で何が違うんですかって言って、山の誇りです、みたいに答えられるとも全くわからないから、「知らない。でもじゃあ安いのでいいよ」って言って、海外産になっていたものを正しく伝えるということ、学んで伝えるということをするを選んでもらえる、ということが、農家さんにとっても励みになるということで、こういった表彰をしてもらうことができました。今では福島県が日本で一番いい畳が普及している県です。日本でダントツに多いです、これは。そしてこの取り組みもあって、壱万円札の旧渋沢栄一邸宅の畳にも採択してもらいました。これは3社相

見積もりでした。ま、たまたま縁があって声を掛けてくださって。他の2社は安く、畳を安くしますよといって。安いイコール良くない。すぐボロボロになったりですね、色が黒ずんだり、あまり香りがしなかったりということだったのですけど。普通、入札は安いところからやりますが、自分は熊本で学んだことをお伝えして、勇気を持って日本の礎を築いた渋沢栄一さんにふさわしい一番いい畳をご提案しますと。その分少し高いですが、うちも努力でいろんな無駄をなくして適正な安価でお届けするので、ぜひこっちを使ってもらいたいですと。結果、3社の中で一番高いですが、うちが選んでもらえたという事例です。これは埼玉県深谷市にあります。年間ですね、10万人以上がこの観光地を訪れていて、10万人以上がこの畳の上を歩いています。安い価格売りの畳を使っていたら、今頃もうボロボロですが、2年経って見に行った時に、丈夫で、そして美しく黄金色に輝いていました。とても施設の方からも感謝していただきました。つまり、畳愛ある自分たちが誰よりも畳を理解して、そして価格競争ではなくて、価値の提供だということに向かっていくべきだと常に思っています。

また、少し話は変わりますが。どうしても和室は畳がいいなと思っても、和室は大変だよという方も多くいらっしゃいます。そんな方にも、ワンポイントで使ってもらえるようにということで、畳コースターを作ってみました。今日もあのこの会場に来た時にですね、あの須賀川の店舗行ったよ、って、コースター持っているよ、って声掛けていただいて、本当に励みになりました。ただ、第一号はとても不格好で、これが自分のサラリーマン時代で作った、先ほど紹介したものです。あまりにバランスも良なくて。で、この様子はSNSで挙げていたら、初め1年間は友達が応援で買ってくれました。逆に言うと、知り合い以外の注文は、ほぼありませんでした。要は商売としては、成り立たない感じでした。それでも諦めずにコツコツと商品開発を重ね、それが今では多くの星付きのレストランや企業のコラボに取り上げられるようになってきました。（写真を提示して）それが最新の畳コースターです。東京やアメリカ ニューヨークの飲食店で、今まで畳がなかったところに小さな畳が登場してきています。そして、外車オーディさんなども、企業からも声をかけてもらって、こういった今まで畳がない場所や企業との取り組みというものも増えてきました。

〔畳を世界へ〕

ここからは、海外の話についてご紹介したいと思います。私の夢は畳を世界に広げることです。なぜかという、やっぱりどうしても国内需要が減っていますが、残ったパイを取った皆さん同士で競争して奪い合うのではなくて、新たな市場を開拓したいという思いがあるからです。ただ、初めはどうしていいか全くわからなかったです。特に留学経験もなく、海外自体がいいわけでもなくて、何からどうしていいか全くわかったのです。海外展開ってどうしたらいいのか。そこで、わからないのであれば、行動すればヒントが見つかるかもしれないと思い、入社3日目に畳のサンプルをスーツケースに詰め込んで、単身でニューヨークへ行きました。ただ、お金もないし、アテもないので、安宿に泊まり、一軒一軒頼りの飛び込みの営業をしました。（写真を提示して）こういう相部屋に泊まって、一軒行き一軒行き。そして、訪問が終わ



る度に聞かれたことや言えなかったことをノートに書き出して、英語で反復練習をしました。私は大学まで出ていますが、英語がもう大の苦手で全然できなくて、そこでさっきなんて言うのだったかな、とかっていうことを調べて、ノートに書いて言う練習をして、次に行くということを繰り返してました。で、どうなったかという、結果は惨敗でした。全然甘くはなかったです。全然買ってもらえなかったです。翌

年、もう一度ニューヨークで挑戦しました。しかし、大型展示会に出るような予算はもちろんです。そこで前回知り合った着物屋さんに訪ねて行ったのですが1回目に。その店主と繋がっていて連絡先を交換していたので相談しました。連絡をしてみました。精一杯の予算が500ドルです。当時のレートで約7万円。どんなに狭くても、どんなに単価高くても場所を貸してもらえませんかとお願ひしました。そしたら、わかりましたいいですよ、と。結果約1坪、4日間だったらいいよということで、(写真を提示して) こういう棚を貸してもらいました。で畳のコースターやサンプルを掲げて。1人で行ったのですが、お金がないので航空券はマイル貯めていたので、全てポイントで予約して。ホテルは民泊を利用して。ニューヨークまで行って帰って交通費も込みで177000円の精一杯のポップアップでした。そしてそこで自分の声で畳の良さを伝え、自分の耳で現地のニーズを聞きました。で、どうだったのかというと、やっぱり現実には真っ暗闇だなと。成果は全然得られませんでした。ただ、諦めずに3年目になります。今度はヨーロッパ。パリやロンドンでも勇気を振り絞って飛び込み営業をしましたが、これもまた大きな挫折でした。全然ダメですね。そして4年目以降、今度はロサンゼルスにPRイベントを開催して、畳を手で茸く実演を披露して、みんなでワークショップをやりました。ただ畳は1枚も売れませんでした。今度はまたパリに行きます。パリ日本文化会館という日本政府の施設、場所を貸してもらって、これも畳のPRイベントをやりました。で、約100名のフランスの文化人が来てくれて、皆さん畳に興味津々でメモを取ったりしながら聞いてくれました。翌日は畳を作るワークショップ。コースターを一緒に作ったりしました。ただ、畳は1枚も売れませんでした。甘くないです。全然甘くない。どうしたらいいかなって、悩んで悩んで。またロサンゼルスに行きます。そしてまた今年今年1月はパリに行きました。あの、皆さんからいただいた利益とかちゃんと貯金して、海外の展開のために使わせていただいているのですが、なかなか芽が出ないです。今年4月はイタリア、ミラノに行って、今度は新商品を開発して。で、畳を使った椅子を発表してやりました。この椅子も一つも売れてないのです。大丈夫だろうか。(笑) そんなことがあってですね。ちょっとあの時間遡るのですが、2024年の11月、約2年前に東京銀座に約4坪のショールームをオープンしました。これは自分の経験がありまして、今まで海外に渡航してお金かけて時間かけてやって、全然上手くいかない。芽が出ないと。逆に発想を変えると、今世界中から日本に人が来てくれていると。その玄関窓口の東京に、狭くてもいいからちょっとだけでもいいから、場所があるだけでも違うのではないかなと思って、約4坪。家賃の皆さん気になるでしょうからお伝えすると約35万円です。1ヶ月。ここで、自分1人で店番をしております。それでオープン

しました。そんな活動とSNSやいろんなホームページでいろんな活動が相まって、たまに問い合わせが来たりして、繰り返していくうちに6年掛かりましたが、今では世界30カ国、週一回のペースで海外から買いに来ていただけるまでになってきました。少しずつ国の数が、少しずつ増えていって累計で30カ国。銀座店に関しては、そこで注文を受けて、後日送る。あるいは畳のコースターとかその場で持って帰ってもらえるので、その国数を数えれば50カ国を超える形になってきました。（写真を示して）これが輸出の様子です。で、事例としまして、これは南米コロンビアのお客様からの注文で納品が完了をしました、と送っていただいた写真です。これアメリカ・ロサンゼルスのお客さんです。ここにも畳に入って完成したよ、という写真が送ってもらって。で、こんな様子の写真をホームページの事例紹介やSNS、Instagramに載せていくと、そこから、うちもこういうのが欲しい、というまた少しずつ少しずつ広まっていく、というものを、今実感しています。

〔須賀川を世界中から人が集まる街に ～ 畳ビレッジ〕

また少し話が変わります。須賀川を世界中から人が集まる街に、ということ。あの話です。何かというと須賀川に畳ビレッジという施設を作りました。これはですね、活動を通して畳文化の発信拠点が必要だと。今日の初めの方の話で、まだまだ伝え切れていないと。自分自身が畳の良さを知らずに、そして伝えられてないと。伝えることが大事だと。ということで、畳文化の発信拠点を日本で初めて須賀川のうちの会社の工場を改装して作ろう、という計画を立てました。そこでは、工場見学ができて、畳作りのワークショップ、体験ができて、そして畳の空間のカフェでリラックスできて、ショールームがあると、そういった複合施設が欲しいと。ただこれもそんなすぐに、じゃあ明日からできる、わけではないです。そのできるまでのストーリーをご紹介したいと思います。

（写真を提示して）これ約5年前です。2021年8月のお盆休みです。この頃から整理整頓に取り組みました。まあ畳ビレッジは、もともとあった工場の建物をリノベーション、改装したんです。盆休みに片付けから始めたのですが、30年使っていた工場だったので、物がいっぱいあって、埃りをかぶってしまっていたりですね、（写真を指し示しながら）こんなものがこう乱雑に置かれたりしているという状況でした。そこで日本一の畳工場を目指して。例えば、テープを挟めて分類して使えるか使えないか、ということをしたんですね、書類を整えたりして、すぐ取り出せるようにと。無駄な時間を省いて、お客様へのコミュニケーションやものづくりに時間をかけられるようにと、徹底した在庫管理と無駄の削減で技術を最大限に生み出し、贅沢せずに、車も買わず、真面目にトラックで通勤していました。子供の頃、迎えに来ないで、って言っていた軽トラックに、今自分は毎日乗っています。須賀川に来て6年経ちますが、まだ車は持ってないです。買ってないです。軽トラしかないです。まあ、それでもですね。やっぱり夢に向かって、皆様からいただいた収益をコツコツと貯金しています。それが銀行からも認められて、多くの資金を貸してもらい、事業計画も、何度も練り直し、そして社員みんなで全国のそういった工場計画などの先行事例を視察して参りました。そして設計図

構築もみんなで毎日膝を突き合わせて打ち合わせをして。畳文化発信拠点、畳ビレッジをオープンすることができました。これが3年前です。2023年の4月です。（自社紹介の映像を流しながら）はい、今日もこの会場到着したら、会社行ったことあるよとか、行ってみたいって言っていた方が多くて、すごく励みになりました。ここでは工場見学をすることができます。畳の製造過程を見ることができます。そしてショップがあって、ま、ショールームになっています。そして畳を作るワークショップができます。（写真を提示して）皆さんです。これは台湾のからの方々です。そして畳のカフェがあります。画面の右側の小上がり、畳で出来ています。上が畳です。左側のコーヒーカーンターの上も畳で出来ています。で、畳の香りがして、癒される畳でいいなと思ってもらいたい思いで、このカフェを運営しています。これが工場に隣接されています。今まで誰も来ることがなかった畳の町工場に、今では年間1万人が来てくれるまでになりました。子供たちも来てくれています。今家に畳がない、和室がない、という人も多いです。そういった子どもたちに小さい時から畳の良さや日本文化の良さに触れてもらっています。工場見学や職場体験の受け入れも積極的に行っています。地元須賀川市内の小中学生、高校生、県中県南地区からも来てくれています。そして畳屋さん、同業者も全国から集まって、みんなが競合ライバルではなくて、仲間として、この産業を残していこうと、価値を提供していこうという見学会の話し合いを行っています。そして、海外のスタッフも来てくれています。須賀川市というのは、特に観光地というわけではないです。ただ、自分の夢は、須賀川に世界中の人に来てもらおうと。そして、須賀川で作る畳を世界中に輸出することです。少しずつではありますが、海外の方々来てくれるようになってきました。初めは全然ダメで、あの3年は掛かりました。行政、須賀川市役所や郡山市役所、福島県庁に行き、ぜひ来てくださいという誘致活動を3年間続けていました。うち以外でいろんなところを30分刻みにこう案内していて、そのうちの1つだったんですけども、やっと3年4年目に入って、3年経って、バスが1台2台少しずつやってくるようになってきました。（写真を提示して）これは外国個人の方々です。特に台湾が最近増えてきました。（次の写真を提示して）皆さんご存知の通りどんどん人口が減って行って、須賀川市内の高校も統合で、それでも定員割れして厳しいと。で、ま〜うちみたいな商売でも基本的には内需、地元でのお客さんがメインなのですが、減る一方で厳しいです。やっぱり外から人に来てもらったり、外に輸出したりということをしていかないと、なかなかここから先、地域、地方は厳しいのではないかとということを常に思っていて。うちの考えとしては、外貨を獲得すると。外貨というのは、海外だけじゃなくて、市内県外から来てもらったり、注文をもらったりということをしていこうと。そして地域を循環してもらって、今高校生とも清陵情報とかとやっていますが、そういった形で、地域と一緒に国際的な街にしていきたいという思いがあります。コンサート支援演奏会を開いたり、これはですね、須賀川市内出身の音楽家と一緒にコンサートを開いたりしています。そしてこれは隣の玉川村の「乙な駅たまかわ」という道の駅には畳のベンチやカウンターがありまして、これは隈健吾さんの設計デザインです。そして須賀川アリーナは畳の席があります。これは福島ファイヤーボンズと一緒にやったものです。そして郡山総合体育館には畳のベンチがあります。という形で、畳の後世に、畳の世界という掘定テーマありますが、正解が

なかなかわからないです。どれをすれば残せるか、どれをすれば範囲が広がるかわからなかったら、とにかくいろんなことをチャレンジして、挑戦してやっていくというしかない、このトライアンドエラーしかないというふうに感じています。

〔まとめ〕

まとめになります。何回も出ましたが、私が須賀川に戻ってからの6年間を振り返っていました。改めて今思うことなのですけども、それは応援していただいている皆様への感謝です。ま月好き並みの言葉に聞こえるかもしれませんが、本当に心から感謝しています。今日この場所においでいただいたこと、私もうちの社員も、そして畳業界もみんな喜んでます。こういった形で皆さんの支えがあるから、畳の産業文化は残っていると、これからも広まっていくというふうに本当に心から思っていて、その感謝の気持ちを忘れてはいけないと常に言い聞かせています。そして諦めずに努力すれば夢は必ず叶うということ。まだまだ課題は残りますが、衰退産業だから助けてください、ではなく、世のため人のために尽くせば、畳の未来を開けると信じています。畳を通して世界中の皆様の幸せに貢献できますように。使命は畳を後世に残すこと。夢は畳を世界に広めること。これからも使命と夢に向かって頑張っていきます。ご静聴ありがとうございました。



質疑応答集

（質疑応答①：安積高等学校 七宮 拓 様）

将来ですね、あの使命とあの夢ということがわかったのですが、具体的にどうなったら久保木さんの中で、あの最後のゴールになった、って感じますか？久保木さんがすごく今なんか不安を抱えながら、やってらっしゃるのだな、と思ったのですが。その反面ですね、めちゃくちゃ幸せそうに感じたんですよ。で、やっぱり今の子供たちがこれからですね、どういう風に生きていくかっていうところの久保木さんがですね。本当に一つのなんか明かりっていうか、指針になるのではないかと思います。

（回答①：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏）

正直わからないのが運命でして。長期的なテーマではありますね。後世の世界と。具体的にというのがわからないので。で、どれがどうすればいいのか。はい。正直ですね。具体的なこう目標というのが難しいです。ただこういう使命感と夢を持って、目の前のことを一つずつ一つずつやっている、というのが、現状で、本音のところなんです。例えば、椅子をこの間作ってみて、それがどうか、結局全然売らなくて。ただ、椅子を作ったことによって、イタリアミラノでそこで発表して、そしたらこんな素材があって、こんな技術があるんだ。じゃあオーダーでソファを送ってくれないか、という風な依頼があった、というような形で大きな抽象的な目

標を掲げて、あとは目の前のことをいっばいしっかり頑張っていくというのが、自分のやり方だと思っています。

(質疑応答②：修明高等学校 中野 賢栄 様)

畳がこう減ってきている理由というのが、まず張り替えがあるというところと、あとダニというところだと思うのですが、その作った商品というのは、このたくさんある中で、張り替えの問題（畳の場合は結局取り替えとかあり、後からお金が掛かる。フローリングだとそのまま済む。それが畳離れの理由になっている）ですとか、ダニの問題ですとか、それが普通のものとのどのくらい違うのかっていうのをちょっと気になったので、答えていただけると。一般のものと久保木さんのところで作っている良い「藷草」を使った時のもので、どのような違いがあるのかなっていうのがちょっと気になったものですから。

(回答②：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

おっしゃる通りでして、うちの方は基本一緒のものをご提案しています。15年20年で使える耐久性に優れた畳です。そしてダニの問題は、あのカーペットなどと一緒にして、それは生活から出るような埃りとか、そういったものが原因になんで、畳自体からダニが発生するわけではないのです。ただどうしてそういう印象があるかという、いいものは美しく色が変わっている経年美化をするのですが、畳の下級品はあの黒ずむんですよ。あんまりこう、あの先ほど私こういう家住みたくないっていう写真を挙げたように、あれ実は下級品だからっていうのもありまして、綺麗にならないんですよ、床が。それかやっぱりそういうのがダニが出そうな印象とかを与えるというところがあります。では、なぜこういう現状が起きているかという、いわばこれ日本社会全体にも言えるんですけど、かつてその価格競争で、とにかく安くやりますよって。結果良くないものを売ってしまった。すぐボロボロになっちゃう、黒ずんで見た目良くなくなって、気持ちが沈むようなものを、まあ1年経ったら、になりますけど、すぐわかんないので。安いからこっちいいですよ、って言って安さでいうのが、結果的にはお客さんのためになっていないことがあります。なので、うちはちょっと高いんですけども、もう2倍の3倍も長待ちして、皆さんの心豊かにします、生活を豊かにしてくれます、という畳を提案するようにしています。その方が畳っていいな、周りにも言ってくれて、じゃあうちも畳を入れようかなと、なるのではないかな、という風に信じています。

(質疑応答③：橘高等学校 安藤 豊 様)

久保木先生のお話、すごく感銘を受けたのですが、私が普通の人はそこまで頑張れないんじゃないかと、私も私に自分自身に当てはめてもそう思うんですけど。何かそのモチベーションを維持する秘訣とか、あと健康面で何か気をつけているということとか、そういう体力的にも厳しいかと思うんですけど、何かそういう、仕事を続けるなんか秘訣というのは何か教えていただければと思います。

(回答③：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

モチベーションをどう保てるかとか、どう頑張れるか。まあなかなか難しくて、こうですよっていうような明確な答えが自分の中で見つかってはいないのですけども。まあ、うちの自分の会社は全部で14人いまして、みんな一丸となって頑張っています。社員もちゃんとしてモチベーション上がっているかという、やっぱり今、夢があって希望がある、というところが大きいなど、皆さんに感謝してもらい、畳入れてよかった、いい香りがして、とかゴロゴロして最高とか、そういった言葉がやっぱり励みになって。海外も初め注文がゼロでしたから、1軒目の時の「1軒目注文入った！」ってみんなで大喜びして。でもどうやって送るんだ、これは？ってとか、そういうので積み重ねていって、喜びを感じて、誇りを持って働いているというところですね。あと、自分もサラリーマンになった時は、それがしたいと思ってやってあげるんだ、正直なんとなく、なんか何社か受けているぐらいだったのですけども。今の活動もですけど、周りの方の影響があって、そういうふうな例えば周りに頑張っている人がいたりして、自分も頑張らないとか、そういったところはあると思います。やっぱりね、今皆さん高校生なので勉強や部活動、社会活動が多いと思うのですけど、それもやっぱり周りの影響というものも周りが頑張っていれば、自分勉強が頑張るぞ、スポーツ頑張るぞ、とかあると思うので、そういったところの環境というものも大事じゃないかなと思っています。

(質疑応答④：あぶくま柏鵬高等学校 橋本 芳和 様)

前にお店に行った時ですね、年配の方、若い方、幅広い方が技術、畳の制作をされると思うんですが、昨今はですね、この技術継承。特に若い人を教えるのは、私ども昭和世代はちょっと苦手、という意識がちょっとございまして、久保木さんの方には、その若い人から年寄りまで、年寄りって言ったら申し訳ないのですけど熟年技術者の、コミュニケーションというか、技術継承というか、意識を持って、こういうことしているよとか、意識なくても、若い者が、学ぶ力があるから、教えなくても大丈夫だよっていう形で持っていていいのか、ちょっとお聞かせ願えると、私共もちょっと建設業をやっているものですから、近々の問題でどうしてもあるものですから、もし会社の方でもこういうことやっているよっていうのを教えてください。よろしくお願いします。

(回答④：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

すぐに答えるのが難しいのですけど、まだうちの基本としては、畳を作る職人っていうのは3人です。1人が60代、2人が30代です。まあ父の世代と自分の世代で分かれていまして。では、どうやってその技術的なものをやるのか。1つは、好きこそものの上手なれって、よく言ったものだなと思って。やっぱりその仕事が好きだったらどんどん自分で学んでいくっていう。まあ、モチベーション的にも、先ほどの方から質問があったようなモチベーションにもつながってくると思うのですけども、そっちを高めていくは、おのずとちょっと残って、今の働き方も大事なのですけども、自分で学ぶ分には非常に学びは大事なので、より貪欲に学んでいくのかな、というのはあります。うちは社員も海外と一緒に連れて行って一緒に行って、その技術者、技術をロサンゼルスがあたりで発表しています。そうするとやっぱりモチベーシ

ョンがあつて、次にも頑張るぞ、っていうのがあるのではないかなと思っています。そこだけじゃなくて、やっぱりうち工場が見えるので、皆さん来ていただくことによって、やっぱり励みになって、より頑張るぞとか、そういった、答えが合っていないと思うんですけども、1つはモチベーションの意義。モチベーションがあれば、周りに繋がるのではないかなというところを自分は大事にしています。

(質疑応答⑤：清陵情報高等学校 佐浦 寿雄 様)

(久保木氏が表示している仮想質問内容の) 4 番のカフェの人気メニューを教えていただければ。

(回答⑤：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木史朗氏)

カフェの人気メニュー、抹茶のものが人気です。特に、初めはコーヒーをメインでおこうと思ったんですよ。コーヒーの香りと畳の香りは相性がいいし、コーヒーは普段飲む。まあ普段から来てもらいたいという思いがあつて、コーヒーって、抹茶が飲む習慣がないから、そんなに出ないだろう。ただ畳と抹茶も相性がいいし、というぐらいで置いていたんですよ。で、オープンしてみたら、コーヒー全然売れなくて。みんな抹茶なんです。で、リピートしてくれるわけです。このようなことがあつて。で、抹茶ラテという飲み物ドリンクと、あとは抹茶を使ったティラミスとかカヌレ、抹茶カヌレいうものも今すごくあの好評いただいています。はい、ぜひ食べに、飲みに来てください。あのお伝えしたいのは、やってみないとわからなかったなっていうのは何事も。やってみるとこっちだったな、っていうのがあつて。というのはあります。ぜひお越しください。

(質疑応答⑥：安積高等学校 伊藤 元治 様)

(久保木氏が表示している仮想質問事項から) 6 番の海外の苦労話というところで、いや、これはちょっと効いたな、というようなエピソード、それからあの、当時、日本文化を海外とかですごく注目されている部分だと私は思っておりまして、少ない海外での挑戦の部分で、海外の方からいただいた言葉とか、その反応ですごく嬉しかったな、っていうようなエピソードがあれば、それぞれをお聞かせいただければと思います。

(回答⑥：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

そもそも海外に行くこと自体がもう心臓バクバクで、行きたくないんですけど、いつも。怖くて怖くて、っていうのもありますね。当てもないですし、不安でしかなくて、行くこと自体が嫌です、正直。今だいぶ慣れてきたんですけど。行ってからの学びだったんですけど、畳で何がいいですかって、海外の方に聞かれて、うまく言えなかったのですよね。それは英語の壁じゃなくて、日本語でも言えない、と言うのは、挫折でして。やっぱり自分自身が畳への理解が浅かったというのもあります。あとはコースター。水に強いプラスチックの素材を、樹脂を使っているんですけども、それに対して、あの、これ畳じゃないのではない

か、って言われて。藺草が、畳があっていいものなんじゃないかと言われて。その時ですね、自分はあるまり藺草の良さがわかってなかったんですよ。理解が浅くて。というものもあの挫折での学びで、改めて、藺草はちゃんと知った上で、ただ飲食店にはたくさん使うならこっちがいいですよ、って提案するのはいいですけども、初めから樹脂製を提案していたというのは否定されて。まあ挫折、学びでした。海外の方からの、畳、そして広く日本文化の印象なのですけど、美しい、ということです。とにかく、日本というのは、自分たちが思っている以上にいろんなものが美しいと、いうことを感じました。例えば、食事。日本料理もすごいですよ。畳もそう。内装とか建築。衣食住に関して、その美しさというものに海外の方惹かれていると。ということで、畳というものも、その美しさ。それは嬉しくて、それって何がいいかというと、心を豊かにしてくれる、というポイントがあるなど感じます。なので、海外の方に言われて改めて気づいた「日本の美」というものを、これからもっともっと伝えていきたいと思っています。

(質疑応答⑦：いわき桜が丘高等学校 佐川 圭介 様)

畳の藺草、先ほど熊本県であの農家の方が生産しているということで、一緒にやっているって聞いたのですが、例えば福島県で生産することは考えていないのか、気候的には可能なのかを聞きたいです。

(回答⑦：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木史朗氏)

はい、ぜひ福島県産の藺草はチャレンジしてみたいです。ただ現状は、やっぱりかなり大変作るのが大変で、そんなすぐにはいかないというのがありまして。まあ、いつかはチャレンジしたいなど。事例として静岡県でチャレンジしている会社があるのですが、一年目は全然うまくいかなかった、というところがあって。いつかはですね、福島県産の藺草で畳をやりたいです。また気候的に可能です。根拠としましては、お米もいろんな品種があって掛け合わせるように、藺草にも、例えばお米でコシヒカリとかヒトメボレとかいろんな品種があるように、藺草にも品種があります。で、うちがメインで使っているヒノミドリという品種は、掛け合わせで片方が宮城県の品種です。なので、東北のものなので、寒さに強いです。といったものもあるので、この気候的には大丈夫と言われています。

(質疑応答⑧：若松商業高等学校 佐藤 充 様)

本校は商業高校なものですから、売上とかの利益、気になりまして、海外への売上、今どのくらいあって、あと支払いなんかもドルとかでもやっているかなと思うのですが、そう最初にこうドルで取引する時に、何をやってたのかなっていうのをちょっとお聞かせいただければと思います。

(回答⑧：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

こういう場所なので、せっかくなのでお伝えすると、売り上げですね。大体やっと月100

万円を超えたぐらいです。これが多いかどうかはちょっと皆さんの判断ですが。6年、7年目で月100万円を超えてきたという規模感です。経費は採算に合うようにしていますが、初めはだいぶ失敗して。例えばあったのが色。畳目の色間違えて送っちゃって、注文と違う、って言われて。また送り直しをするとうちが全部送料持ちなので。あと送料を見込んでいたのが全然計算が違って送料がプラス20万円掛かって。もう今更言えずに、うちが持ちます、とか。全然できてなかったですが、やっと7年ってなって、その裏のやり繰りで、ちょっとは残るようになってきました。そして支払いに関してなんですけど、うちはクレジットカードを使っていまして、日本円でもらっています。どれでもできるのですが、特に円でも良くて、あのメールアドレスが分かれば、オンライン請求書というのも送れて。だから10万円だったら10万円を入れて送信すると、相手がメール届いて、メール開いてボタンを押すとカード番号を入力する画面になって、移動すればOKというシステムで、すごく重宝しています。国際送金って方法もあるんですけど、手数料とか5000円とか聞いていまして。そういった形で、クレジットカードが主流ですごく便利に使っています。今やっぱり日本円が安い、弱いので、輸出には追い金ではあります。

(質疑応答⑨：あさか開成高等学校 菅島 慶子 様)

社長、いろんなチャレンジをなさっていてすごいなと思ったんですけど、話聞いて、あの過去サラリーマン時代とか学生時代のチャレンジで、この経験が生きている、というのがあったらぜひ教えてください。

(回答⑨：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

過去の経験が今どう生きているか。継ぐ気なかったんで、畳のために考えていたことは1個もないです。将来を思ってこれをしてた、はないのですが、一つですね。経験があるのは、大学時代の専攻は情報工学といって、あの人工知能研究をしていまして、学校自体がそんなレベル高くないのですけどもやっていて。なんで、そんなAIとかパソコンとかそういうもののアレルギーは多分そんなに無くて、むしろ好きでやっています。そうことがあると。あとはサラリーマン時代に僕のお寿司とか外食が大好きで、貯金も全くせずにお寿司屋さんとか行くことがあるんですよ。で、畳のことも全く考えてないんです。その経験があったのか、あのお寿司屋さんにいるなら、こういうコースターとか、こういうデザインがいいのではないかとかっていうのが、あの普通に生活しているよりは、ある程度のこう経験があった、というのが今思うと生きているんじゃないかな、というのがあって、計算して辞めた訳じゃなくて、その時に好きだったことに没頭していた結果、今それが繋がっていることがいくつかあるな、ということを感じています。

(質疑応答⑩：安積黎明高等学校 幕田 宙晃 様)

私も会社にお伺いした時ありますし、ワークショップもやらせていただきました。先ほどお話の中で、販路を広げるために海外に向かおうと思った、というお話があったんですけど、普

通だったらなかなかすぐに海外に行こうって思わないと思うのですよね。そこに、すぐ行こう、と思った、そのバイタリティの原点ってなんかあるのですかね。販路を広げるために、普通だったら地元の須賀川を離れてちょっと隣の県に行ってみようかなとか、日本全国に行ってみようかな、ってなると思うのですが、いきなり海外に数ヶ月で行って、毎年海外のロンドン、パリ、ニューヨーク、ロサンゼルスというところに行かれた、その本当にバイタリティの原点って何かを、ちょっと教えてください。あと例えば蘭草って多分日本では熊本が、っていう話ありましたけど、例えば、あのなんだろう中国とか東南アジアとかそういうところにも蘭草ってたぶんあるのかなと思うんですけど、そういったものを利用して海外に進出するような計画はまだないのですか。

(回答⑩：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

難しい質問なのですが。まあ一つはその販路を拡大する上で、国内だと畳屋さんがいるんで、やっぱ郡山にも畳屋さんいますし、県外にもいますし、その方々の仕事を奪うようなことはしたくないな、と思って。競争、いい意味での切磋琢磨はいいと思うのですが、あんまりそういうのはしたくないな、って。ほとんどやってないところはどこだ、って時に海外が出てきたっていうのがあります。あとはやっぱり夢があるな海外は、っていうのがあって。で、自分の畳を世界の方に届けたいな、知ってもらいたいな、という夢があったのですね。まあそれがその行動の原点にはあるな、と思っています。

それから、蘭草に関しては中国産があります。それは、蘭草に限らずかつていろんな繊維とか工機・工業製品を製造する日本企業多くが、中国の安い人件費などもあって、中国に工場を移していったと。蘭草も類に漏れず、中国で大きな農園を作って蘭草を育てて、日本用の、でやっていたのですが、僕は悪く言いたくないですけど、やっぱり日本産の方が物はいいです。耐久性が良くて、香りが良くて、そして美しく色が変わる、というのがあるので。自分はこれを伝えた方がお客さんにとってもいいと思っているので、今のところその海外産の蘭草を使う計画はないです。

(質疑応答⑪：修明高等学校 片野 雅教 様)

今回のこの場所っていうのは、高等学校のPTA連合の会で、講師やっていることで、あえて(示された疑似質問事項中の)8番を皆さんに最後に。高校時代どうだったか、っていうことを踏まえて、ちなみにどこの高校かと、あと恩師、教えていただければと思います。

(回答⑪：有限会社 久保木畳店 代表取締役 久保木 史朗氏)

わかりました。私は須賀川出身なのですが、郡山市の安積高校の出身です。で、恩師。あのすぐ思い浮かぶのが、あの今日いらっしゃるのですが、浅野先生って先生いらっしゃいました、あと息子さんがいらっしゃっていて。で、そのエピソードがあります。あのまあ勉強はあまりやってなかったんですが、要はモチベーションが大事だになっていうことで思い出のですが、浅野先生って数学の先生へ質問に行くのですよ。そうすると「久保木、分かんたろお前は。

自分でやれ。」みたいな「大丈夫だから。お前なら出来るから、出来るから、出来るから。」って言って。それが良かったのですよね。むしろ信じてくれて、細かいことよりもちょっと信じてくれて、信じてもらって励ましてもらってと。それがあから、あの燃えて、勉強頑張るぞ！っていう。みんなそれで行くわけですよ。その質問じゃなくて、こう励ましてもらえるモチベーションのために先生に浅野先生のところに行くって、いうのがありまして、それが一度ですね。で、今の話に強引につなげると、技術のその継承とかも、皆さんのお子さん、あの生徒さんもやっぱりモチベーションを高く持つことがやっぱり何よりも大事なことのひとつじゃないかなと。そうすれば自分で勉強もしますし、運動も頑張るし、課外活動も探究とか、他のことも頑張れるのではないかなというのがあります。高校の校訓で開拓者精神みたいなのがあって、それぐらいの海外への開拓者とか、新たな道というものも、もしかしたら伝わっているのかな、と今思うと感じます。

御礼の言葉 （福島県高等学校PTA連合会会長(安積黎明高等学校) 佐藤 理広様)

久保木さん、素晴らしいお話ありがとうございました。久保木さんのお話を聞いて、最初の10分で思ったのが、だいぶセンセーショナルだなと。豊に未来はないのかと。すごい言葉から始まったのですよね。で、もしかしたら今の日本っていうのは、あらゆる業界で、未来がないと思っている業界って結構あると思うのです。そしてそれがあの例えばAIにとって変わられるとか、今のままでは稼いでいけないぞみたいな業界って、もしかしたらすごくたくさんあるのではないかなと思うのですよね。そんな中、久保木さんのお話を聞いていると、まず考え方を変える視点を変える。そしてそれを行動に移して、そしてそれを発信する。その一連の行動の中に挫折と学びがある、というふうに何回もおっしゃっておられました。この挫折と学びっていうのが、あの多分、専門用語で、横文字なのよくわかんないんですけど、トライアンドエラーという言葉なのだろうなというふうに思います。この考え方行動発信と挫折と学びっていうのを何回も繰り返していきながら、おそらく見えてきたものっていうのが、もしかしたら未来なのかもしれないし、新しく夢なのかもしれない。そしてそのトライアンドエラーを繰り返してきて、結果、見えてきたあの夢とかっていうのが、夢とかの誇り、特徴に取られました。その誇りとか夢っていうのを、どうにかしてみんなに伝えたい。それがおそらく今の久保木先生のあの、行動の限定というかモチベーションの限度というとかいったことなのかなと思います。PTAの今回の県大会でこのように皆さんにお話をさせていただくというところには、そういったご自身の経験を伝えることで、あらゆる業界に今いらっしゃる皆さんの助けにあればいいのかなというふうに久保木先生が思っていたらいいんだな、と受け取ってしまいました。2つ正しいですか？（久保木さんに確認）ありがとうございます。やっぱり我々、我々様々な業界の方がいらっしゃいますけれども、自分たちの仕事に誇りを持てなかったり、モチベーションが上がらなかったり、結果として夢とか希望というのは持てなくて、っていう人も、もしかしたら少なからずいるかもしれない。そうい

った背中を子供たちに見せた時に、子供たちは果たして、我々に対して明るい未来が見えるのかどうか、と言ったところっていうのもあって。今日のお話聞きますと、さっきも質問ありましたけど、久保木さんとってもなんか楽しそうに喋るんですよね。失敗をしているんですよ。多分何回も泣いてんです。おそらく。にもかかわらず、これだけ楽しそうに夢とか誇りを。売り上げ100万円ってさっきおっしゃっていましたが、海外で従業員14人いるってことで、もしかしたら結構大変な部分ももしかしたら今もあったのかもしれない。それでもそんなことをおくびにも見せず、楽しく話している。この姿ってすごく感動するし、うちの子供に見せたいなと。皆さんもそう思ったでしょう。ありがとうございます、っていうことで、とんでもなくいいお話でした。で、先ほど私名刺交換したのですが、名刺が畳なんです。すごくいい香りするの。きめ細かく作ってあって。今日何枚ぐらいお持ちですか？（笑）すごく素晴らしいお話でした。お礼の言葉としては、先生に対するお礼としては足りないかもしれませんが、すごく今日、いいお話が聞けたなと思って、これを御礼の言葉に代えさせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。



各 分 科 会

第 1 分科会 総務委員会
(会場:福寿)



第 2 分科会 進路対策委員会【就職】
(会場:チェルシー)

第 3 分科会 進路対策委員会
【進学】(会場:メイフェア)



第 4 分科会 健全育成委員会
(会場:開成)

第 5 分科会 調査広報委員会
(会場:白鳳)



第 1 分科会（総務委員会）

問題提起者：光南高等学校高校 P T A 会長

砂川 信一

「PTA 及び地域との連携を生かして こどもたちの未来へ」

問題提起者：福島東高等学校 P T A 事務局担当

木村 翔太郎

「新しい学校づくりと、時代に即した PTA 改革の実践」

司 会：郡山北工業高校

指導助言者：福島県教育庁 社会教育課 主任社会教育主事

斎藤 和久

記 録 者：須賀川桐陽高等学校

世 話 役：あさか開成高等学校

● I 「PTA 及び地域との連携を生かして こどもたちの未来へ」

光南高等学校高校 P T A 会長 砂川 信一

1. 学校の概要と教育体制

光南高等学校は、県南の西白河郡矢吹町に位置する総合学科の高等学校です（学級数 16 クラス、生徒数 569 名）。「自由・責任・創造」をスクールアイデンティティとし、平成 8 年に県内初の総合学科として新設されました。現在、創立 30 周年記念行事を挙げるなど歴史を重ねており、式典では生徒会長が挨拶を務めました。

生徒の多様な学びに応えるため、100 科目を超える選択科目を設け、以下の 6 系列を編成しています。

- 文系
- スポーツ系（スポーツ全般、ニュースポーツ、野球など）
- 家庭系（食・保育などを通じた健康で豊かな生活のための資質育成）
- ビジネス系（情報ビジネス、簿記、マーケティング、PC スキル、ビジネス経営基礎等と各種検定挑戦）
- 技術系
- 福祉系

学習の成果として、毎年 12 月に「課題設定→情報収集→分析→まとめ→表現」という探究サイクルを実践する「校内課題研究発表会」を開催しています。卒業生は大学・専門学校・各

種業界など多方面で実績をあげています。また部活動・特別活動も盛んで、甲子園出場と勝利を目指す野球部やインターハイ出場実績のある女子バスケットボール部、活発な応援団・チアリーダーのほか、全国的にも珍しい楽曲の編曲・制作活動を行うアートシンセサイザー部などが特色として挙げられます。

2. PTA 活動と地域連携の取り組み

本校では、地域（矢吹町）との深いつながりと、保護者のニーズに応じた PTA 活動を推進しています。

- 地域との連携：町内企業での職場体験や、地域の中学校・保育園での実習受入れ、地域資源を活用した探究学習を行っています。さらに 3 月 30 日には町と連携協定を締結し、地域振興と教育活性化に向けた協働体制を強化しました。
- PTA による学校支援・広報：年 2 回発行する PTA 広報誌「コスモス」では、写真を中心に生徒の活動をわかりやすく可視化しています。また、通学バスや校内購買部の運営を PTA が担っており、その収益は生徒会活動などの充実へ還元しています。
- 実践的な学び（ビジネス系生徒の販売実習）：昼休みには中庭で地元菓子等の仕入れ・販売を生徒が行い長蛇の列ができる盛況ぶりを見せており、現在は町内での校外販売会も企画進行中です。
- PTA 研修会：ライセンスアカデミーから講師を招き、「高校生の進路と家庭の支援」「進学費用・学費・奨学金」等をテーマに研修を実施しています。「進学費用」に関する関心は特に高く少人数ながら熱心な参加が見られるため、今年度も奨学金と進学費用を中心に再実施する方針です。
- オンラインを活用した情報発信：コロナ禍を機に校内スタジオの設置や Google Meet での配信（挙手機能による質疑応答）を導入しました。現在は YouTube 限定配信と資料の QR コード化を組み合わせることで、平日来校が難しい保護者への情報到達性や即時性を大幅に向上させています（紙資料の希望者には個別対応）。この取り組み等により、PTA 総会では前年より参加者が増加しました。

3. 運営上の課題・リスクと緩和策

学校生活や PTA 運営の持続性を高めるため、以下の課題とその対策に取り組んでいます。

(1) PTA 総会出席率低下への対応

- アーカイブ動画の配信、資料の QR コード配布、紙資料の個別配布を実施し、あわせて学校教育への理解・協力を幅広く呼びかけています。

(2) 施設・設備の更新

- 南校舎の改修は完了しましたが、東校舎の設備更新が今後の課題となっており、計画的な予算管理と優先度に応じた立案を進めます。

(3) 通学バスの運行採算と燃料高騰

- 燃料高騰に伴い採算が悪化しており、夏休み期間中の運行停止などの措置をとっています。利用者減少による一人当たりの負担増を抑えるため、運賃・便数・補助等の選択肢を試算し追加対策を検討します。

(4) PTA 予算の逼迫

- 予算逼迫に伴い、PTA 総会にて PTA 会費の値上げを審議・可決しました。

4. 今後の予定および対応事項

持続可能な学校・PTA 運営に向けて、以下の事項を順次進めてまいります。

- 環境整備（草刈り・美化活動）
 - 県健全育成関連委員会が主体となり、6月8日（土）8:30～9:30 に実施予定です（目標参加者数：約 40 名）。広い校地の環境を維持するため、募集・配置計画・当日運営体制を整えます。
- PTA 研修会の確定・周知
 - 「奨学金・進学費用」をテーマとした日程・内容を確定し、全保護者へ周知します。
- 次回 PTA 総会への情報発信準備
 - YouTube 限定配信 URL および資料 QR コードを準備・配布し、引き続き配信と紙媒体の双方で対応します。
- ビジネス系校外販売会の推進
 - 実施場所・許認可・安全管理体制を確定し、校内外への周知を行います。
- 通学バス改善案の提示
 - 燃料高騰対策と夏季運行方針を含めた改善策を試算・提示します。
- 東校舎設備更新計画の策定
 - 要件整理・優先度付け・概算予算の作成を行い、年度内に計画案を取りまとめます。
- 広報誌「コスモス」次号の編集
 - 生徒活動・PTA 活動の可視化を一層強化するための素材収集・編集方針を確定させます。

● II 「新しい学校づくりと、時代に即した PTA 改革の実践」

福島県立福島東高等学校 PTA 事務局担当教諭 木村 翔太郎

教育課程の変更に伴う放課後活用の取り組み、社会変化に対応した PTA 会則の大幅改定、生徒の探究活動への PTA 参加という三つの主要な挑戦について詳細に説明された。

福島東高校の概要について、昭和 55 年創立以来「創造、協調、躍進」の校訓のもと、地域に根差した進学校として歩んできた。同校の最大の特徴は文武両道であり、学習と部活動を高いレベルで両立させることで、生徒たちは自己管理能力や高い集中力、困難に立ち向かう粘り強さを身につけ、毎年多くの生徒が国公立大学等への進学を実現している。

教育改革について、従来の 50 分 7 時限授業から 50 分 6 時限授業への移行という抜本的なカリキュラム見直しを実施した。この改革により生み出された放課後の時間を「自己探求」（通称「自己探」）と呼び、生徒たちが主体的に選択する時間として活用している。自己探の時間には、個別対話（教員と生徒の一对一面談）、主体的自学（ICT 教材スタディサプリ等の活用）、生徒の協働（教え合い・学び合い）、知の進化（図書館での専門書読書）の 4 つの活動が展開されている。

PTA 活動については、年間を通じた多面的な活動を紹介した。4 月の入会式、総会、役員会、5 月・10 月の進路対策部活動振興委員会、10 月の校門指導、1 月の広報誌発行など、伝統的な PTA 事業を継続している。また、PTA および後援会からの財政支援として、放課後課外授業・推薦個別指導対策・小論文添削指導への助成、東北大会・全国大会出場生徒の旅費、練習環境向上のための備品助成、エアコン維持管理・電気代助成などが行われている。

PTA 会則改定について、社会変化に対応するための大きな改革を実施した。共働き世帯の増加やライフスタイルの多様化に対応し、義務化による活動から納得と共感による活動への移行を目指した。具体的な改定内容として、組織名称を「父母と教師の会」から「保護者と教師の会」に変更し、祖父母等様々な家庭環境を包括する表現とした。また、会則第 4 条に入退会の自由と任意性を明確化し、入学時に入会申込書を提出する仕組みを導入した。

探究活動について、「東高リベラルアーツ」という学年横断型の合同ゼミを紹介した。1 年生と 2 年生が合同で同じゼミに所属し、文学から医学、理学、社会学、芸術、スポーツまで 20 以上の専門分野が用意されている。生徒たちは自らの問いを立て、教員はファシリテーターとして寄り添う形で指導が行われている。

探究事例として 3 つの具体例が紹介された。1 つ目は「良い授業とは何か」をテーマとした研究で、生徒たちが教員へのインタビューやアンケートを通じて「面白いから寝たくない」と思える授業の条件を発見した。2 つ目は「戦術の構造をデータで解く」スポーツ科学研究で、福島ユナイテッド U-18 所属生徒が J リーグユースチームとの比較分析を行い、技術的数値以外の判断スピードやメンタル面の重要性を発見した。3 つ目は「翻訳に見る文化と価値観」研究で、ディズニー映画『アナと雪の女王』の主題歌『Let It Go』の英語版と日本語版の歌詞比較を通じて、翻訳が文化や価値観の反映であることを発見した。

PTA 参加について、探究成果のポスター発表会に保護者が積極的に参加していることを報告した。従来の授業参観とは異なり、保護者が各ポスター前で生徒のプレゼンテーションを聞き、大人の視点から質問を投げかけることで、生徒の学びがさらに深まっている。また、今年度からはスポーツ大会や校内文化祭などの行事にも PTA 役員が参加し、学校の雰囲気を感じ取る機会を増やしている。

質疑応答では、入退会手続きと非加入者への対応について質問があり、入学式で入会希望書を提出してもらい、非加入の1件についてはPTA会費と同額を生徒活動協力費として納めてもらっていると回答した。また、ポスター発表会への保護者参加人数や球技大会への保護者参加範囲についても質問があり、昨年度から開始した取り組みで、現在はPTA役員50数名を中心に案内しているとのことだった。組織名称変更の経緯について質問があり、教員からの提案で県内他校の事例も参考に総会で議決したと回答した。

●Ⅲ 指導助言

福島県教育庁 社会教育課 主任社会教育主事 斉藤和久

元校長としての教育経験を持ち、今回初めてこのような場に参加することを述べた。光南高校について、県内初の総合学科として30周年を迎えた同校の取り組みを高く評価した。100を超える選択科目を提供し、県南・県中・会津方面から広く生徒が集まる学校として、矢吹町との地域連携による職場体験や様々な体験活動を実施していることを称賛した。PTA活動においても、除草作業、新規研修会、広報発行、挨拶運動など、生徒が安心して学べる環境整備に積極的に取り組んでいると評価した。

課題として挙げられたPTA総会への参加者減少について、斉藤氏は全国的な傾向であることを指摘し、参加する価値を感じてもらうことの重要性を強調した。具体的な改善策として、進路に関する内容や学校生活に役立つ情報の提供、オンライン参加の検討、親子合格体験記の活用、SNS・スマホ利用に関する話題、部活動発表、探究活動紹介などを総会に盛り込むことを提案した。

校内設備の老朽化問題については、予算措置の必要性和子どもたちの安全確保を最優先とすることを述べた。通学バス利用の不便さについては、生徒数減少による悪循環を指摘し、学校存続や地域の将来に関わる重要課題として位置付けた。解決策として、コミュニティバスやデマンド交通の活用を中長期的対策として提案した。

福島東高校については、文武両道を目指す学校として56年の歴史を持つことを紹介した。斉藤氏自身の高校時代の野球部経験から、同校の一生懸命な取り組みへの印象を語った。新しい学習システムとして、授業時数を減らし放課後に生徒が必要に応じて選択的に学習する機会を設ける取り組みを「刺激的」と評価した。

PTA会則改訂について、斉藤氏は「素晴らしい」と高く評価した。保護者と教師の会として、入退会を保護者の自由意思とし、共感による参加を尊重する方針により、加入率がほぼ100%を維持していることを称賛した。会費を納めない家庭への対応については、全国的な課題として理解を示し、事情説明と理解獲得の重要性を強調した。

探究活動発表会への保護者参加について、2022 年改定の新学習指導要領における総合的な探究の時間の意義を説明し、保護者が発表を見るだけでなく、活動そのものに参加することの重要性を提案した。「保護者から伴走者へ」というキーワードを心に留めておきたいと述べた。

PTA 活動の今後について、斉藤氏は多様化・効率化・働き方改革の流れの中でも、PTA の重要な役割（学校教育理解振興、家庭教育理解振興、校外生活指導、地域教育環境改善充実）を見つめ直すことの必要性を強調した。感動を共有できる人を増やすことの重要性を述べ、行事準備への保護者参加により教員の働き方改革にもつながる可能性を示唆した。

最後に、「福島を 17 音で奏でよう」事業の紹介と、震災復興関連の「福島の未来創造プログラム」について情報提供を行った。

第 2 分 科 会（進路対策委員会・就職）

問題提起者：郡山萌世高等学校 定時制課程 P T A 会長

關根 里美

「本校の教育活動について」

問題提起者：喜多方桐桜高等学校 P T A 会長

原 修司

「進路対策委員会の活動」

司 会：石川高等学校

指導助言者：福島県教育庁 高校教育課 指導主事

佐藤 貴之

記 録 者：郡山商業高等学校

世 話 役：岩瀬農業高等学校

● I 「本校の進路活動について」

郡山萌世高等学校 定時制課程 P T A 会長 關根 里美

1 発表概要

● 「本校の進路活動について」

郡山萌世高等学校 定時制課程 P T A 会長 關根 里美

1 発表概要

(1) 本校の概要

安積第二高等学校、あさか開成高等学校を経て、2001 年 4 月 1 日郡山萌世高等学校として発足。全国にも例を見ない駅ビルの中（郡山駅前の「ビッグアイ」内）にある高校である。学区は県内一円、福島市や若松市の生徒も在籍し通学している。

定時制課程は、昼間主コース（定員 120 名）、夜間主コース（定員 40 名）の 2 コースを持ち、単位制を採用している。昼間主コースでは、2 年次以降、進路希望を実現するための科目や技能を身につけるための科目、教養を身につけるための科目等から、生徒はそれぞれの興味関心・進路等に応じて科目を選択する。夜間主コースは、学年ごとの一斉授業である。就業年数は、昼間主コースは 3 年間、夜間主コースはゆっくりしっかりと学習することを目的とし 4 年間が基本。時程は、昼間主コースは 10 時 05 分から 16 時 35 分まで、夜間主コースは 17 時 20

分から 20 時 45 分までとなっている。

(2) 本校の P T A 活動

- ①あいさつ運動：5 月・10 月・1 月の年 3 回、昼間主の放課後・夜間主の登校時間である 16 時 35 分から、P T A クラス役員が中心となって実施。
- ②公開文化祭の補助：公開文化祭にて、受付の手伝いと誘導案内の補助及び校内展示の見回りを実施。

(3) 令和 7 年度卒業生の進路

四年制大学・短期大学・専門学校へ 28 名の生徒が進学。福島大学食農学類をはじめ、様々な学校へ進学。就職は 58 名、ほとんどが県内での就職。県外企業への就職や公務員になった生徒もあり。就職希望者は、就職率 100 パーセントを達成。

(4) 進路実現に向けて

① 個別支援教育

生徒一人ひとりに寄り添い、「学習」「生活」「進路」の 3 つの側面からサポートすることを目的とする。

(A) 萌世カフェ

- ・ N P O 法人郡山子ども若者ネットワークのスタッフ、通称「子若ネット」のスタッフの方々を中心に運営。
- ・ 月に 2 回程度、本校図書館にて開設（令和 4 年度～）
- ・ 様々な事情を持った生徒が、保護者でも教員でもない外部の大人と触れ合いながら過ごすことができる居場所
- ・ 最低限のルールやマナーを守りつつ、ゲーム・ギター・おしゃべりなどを自由に楽しむ。
- ・ 月 1 回、萌世カフェ+（プラス）では、おにぎりやカレー、豚汁などの軽食を提供。
- ・ 保護者教員以外の大人との関わりから信頼関係を構築し、悩みの解決に導いた例もあり。
- ・ 在学中に利用していた生徒が、卒業後もスタッフを訪ねて相談する例もあり。

② ソーシャルスキルトレーニング

対人スキルを正しく学習すれば、人との関わる力を向上させることができると考え、令和 5 年度から導入。

(A) 新聞タワー

- ・ 10 人弱のグループで、新聞とテープを使ってできるだけ高いタワーを作る。
- ・ グループ全員でコミュニケーションを取り、アイデアを出し合うことで、協力する力をはぐくむ。

(B) 担任教師のヒューマンライブラリー

- ・ 担任が自身の人生を語る。人生の浮き沈みを、視覚的にわかりやすいように説明。
- ・ 先生の姿を見て、学校生活で生徒たちが安心して自分を表現できるようになることを期待。

(C) ペアインタビューワーク

- ・好きなことをペアで話すことにより打ち解け合い、次のステップへ。

③ インターンシップ

- ・2年次全員、2日間、約40事業所の協力
- ・職業意識を高め納得できる進路選択に向けたきっかけ作り。

④ 校内事業所説明会

- ・仕事だけでなく、福利厚生など働く環境についても詳しく話を聞く。
- ・一度に複数の事業所への理解を深める機会。
- ・3年次には、職業セミナーとして「スーツ着こなし」・「就職直前セミナー」なども行う。

⑤ 先輩の話を聞く会

- ・卒業生（就職・進学）各10名から、自身の成功体験・失敗談・アドバイスをもらう。

⑥ その他

- ・応募前職場見学（一人3社）、進路支援員教員による事前面接・進路強化集会

(5) まとめ

独自の取り組み「個別支援教育」を土台とし、生徒一人ひとりが自分の強みを見出し、納得のいく就職、希望の進路へつながる取り組みを行っている。

2 質疑応答

特になし

●Ⅱ「進路対策委員会の活動」

喜多方桐桜高等学校 P T A 会長 原 修司

1 発表概要

(1) 本校の概要

喜多方市の南部に位置する本校は、喜多方工業と喜多方商業が統合して平成22年に開校した（創立17年）。

(2) 学校紹介

（学校紹介動画あり）

昨年度は、レスリング部・商業クラブが全国大会へ、商業科の家庭研究班が東北大会へ出場。70%以上が就職する。

(3) 本校PTA活動の紹介

4 委員会（総務・進路対策・健全育成・調査広報）がある。令和 6 年度より、全保護者が 3 年間のうち 1 回は役員を務める形にした。「少子化による生徒数の減少」「役員保護者の負担減少」「より多くの保護者の関わりの増加」を目的とし、負担が偏らず全保護者に関わってもらえるようなシステムを構築。

昨年度は公開文化祭で食堂を運営し大盛況。益金は全生徒に還元する形で TENT を購入。

(4) 進路対策委員会の活動紹介

例年、保護者向け進路講演会を進学・就職を別々に実施していた。昨年は『分けない』『保護者だけでなく、生徒教員も』と内容を変えて実施。講師は、お菓子の「太郎庵」の目黒徳幸氏に依頼（以前話を聞いた保護者からの要望）。講演後のアンケートには、「社会人として、さらには生きていく上で大切な心の持ち方を学んだ」、「考えさせながらも面白い面も多く非常に有意義であった」、「人材育成で参考になる点が多くあった」など好意的な感想が多数あった。次年度は、参加者がグループで話し合えるような形式を望む声もあがった。

(5) その他

役員会や学校行事への保護者参加率向上に向けた取り組みなどがあれば教えてほしい。他校の実施例があれば共有したい。

2 質疑応答

全員必ず 1 回のシステムについて、保護者から苦情がでることはないのか。

→ 現在のところ出ていない。やりたくない人は参加しないのではないかと解釈している。

●Ⅲ 指導助言

福島県教育庁 高校教育課 指導主事 佐藤 貴之

福島県は文部科学省の調査において、就職内定率が全国で上から 3 番目と非常に高い水準にある。高校卒業生の約 50 パーセントが製造業に、約 10 数パーセントが建設・電気工事関係に従事しており、県の基幹産業や地域インフラを支えているのが現状である。

しかし、経済産業省の「2040 年の就業構造推計」によれば、将来的に日本の就業構造は激変する。事務職が約 437 万人余る一方で、AI やロボットを扱う専門人材が約 340 万人、製造現場で働く人材が約 260 万人不足すると予測されている。今の高校生が 30 歳を迎える頃には、事務職が AI に代替される一方で、ものづくりの現場では深刻な人手不足が生じるという事態が漠然と見えているものの、何を選択するのが正しい進路なのか、生徒たちも不安を抱えている。

福島県は、令和 4 年度から令和 12 年度の「福島県総合教育計画」において、「急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし、対話と協働を通

して、社会や地域を創造することができる人」の育成を目指している。ここで重要となる「キャリア」とは、単なる経歴ではなく、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係性を見出す「連なり」を指す。学校での授業や行事を通じ、人との繋がりと挑戦による自信を積み重ねることで、不透明な時代においても壁を乗り越える力が身につくと考えている。

『郡山萌世高校の取り組み』

郡山萌世高校の「個別支援事業」は、学習・生活支援の視点から生徒のキャリアを育てている。

「斜めの関係」の構築：教員や保護者といった「縦・横の関係」ではない、大学生やNPO法人といった「斜めの関係」を「萌世カフェ」などを通じて構築している点は非常に興味深い。生徒が心を通わせ、相談しやすい環境となっている。

ソーシャルスキルトレーニング（SST）：対人スキルを繰り返し身につけることで、成功体験を自信に繋げ、将来の就職後の人間関係構築にも寄与する計画的な取り組みである。

新聞タワー作り：協力を通じて目標達成を目指すこのワークは、論理的思考や感覚的な発想など、生徒に新しい視点を与える面白い取り組みである。

一人ひとりの生徒が個別支援を受け、自信を持って卒業し、卒業後の壁を乗り越えられる力を身につけさせることは極めて重要である。

『喜多方東高校の取り組み』

喜多方東高校は、地域産業を支えるエッセンシャルワーカーや技術者を育てている。

生徒の笑顔と充実感：紹介動画に見られる生徒たちの笑顔と目の輝きから、技術を身につけ未来へ羽ばたこうとする学習の充実度が伝わってくる。

PTA活動のシステム化：全員参加の組織を継続させるためには、個人のマンパワーに頼るのではなく、誰もが参加しやすい「システム構築」が不可欠である。学校行事と絡めるなど、親が子供の輝く姿を見に行ける環境を続けてほしい。

進路講演会での方向性共有：保護者、生徒、教員が同じ話を聞くことで、共通の理解と共感が生まれ、皆が同じ方向を向いて生徒の挑戦を後押しできる環境が作られている。

今年度も6月1日に高校生の求人票の受付が始まった。例年通り、生徒数に対して非常に多くの求人が寄せられている。生徒が自信を持って受験に臨めるよう、まずは高校生活の充実を図ることが大切である。生徒の悩みに耳を傾け、その夢の実現を後押ししていく決意である。

第 3 分 科 会（進路対策委員会・進学）

問題提起者：田村高等学校 P T A 会長

入倉 智恵

「田村高校がおかれている状況」

問題提起者：いわき光洋高等学校 P T A 会長

門馬 啓哲

「多様化した時代の中での進路選択～未来を紡ぐ子供たちへ～」

司 会：郡山高等学校 P T A 役員

安斎 拓郎

指導助言者：福島県教育庁 高校教育課 指導主事

鈴木 美紀子

記 録 者：白河高等学校 P T A 担当

小松 保晴

● I 「田村高校の魅力向上委員会の活動と進学状況について」

田村高等学校 P T A 会長 入倉 智恵

1 発表概要

（1）本校の概要と置かれている状況

沿革と特徴：令和 5 年に創立 100 周年を迎えた伝統校。数多くの著名な卒業生（世界初エベレスト登頂の田部井淳子氏、パラリンピック金メダリストの橋本勝也氏など）を輩出。

直面する課題：令和に入り定員割れが継続。原因は地元（三春町・田村市・田村郡全体）の少子化進行と、高校学費無償化に伴う私立高校への進学者増加の 2 点。

田高再生事業：同窓会を中心に「リボーン田村」をテーマに掲げ、令和 3 年に「田村高校魅力向上委員会」を立ち上げ。三春町、同窓会、PTA、教職員の 4 者が一体となって運営。予算の裏付けは三春町が約 7 割（約 300 万円）、同窓会が約 3 割（約 100 万円）。

（2）魅力向上委員会の組織と部会活動

行政・同窓会・PTA・教職員が連携し、以下 3 つの専門部会で事業を実施。

学力向上部会：夏休みに国公立大・その他進学希望者を対象とした 1 週間程度の学習会を開催。英検などの検定試験受検に対し、年 1 回半額の補助金を支給。

競技力向上部会：仙台大学との連携授業（スポーツ科対象、教授の講義や大学訪問）により早期から進学意識を醸成。遠方からの女子生徒のため、三春町運営による寄宿舎「桜学館（女子寮）」を創設。

地域共同部会：地域のお年寄りのフレイル予防を目的とした「田高（でんこう）体操」をスポーツ科生徒が主体となり創作。

（３）地域社会とのコラボ「田高体操」

創作背景：運動指導のプロである岡田マキ氏（郡山市出身）を講師に招き、生徒が主体となって考案。野球、柔道、バスケットボールなど各種目の動きをお年寄り向けにアレンジ。BGMには親しみやすい北島三郎の「ズンドコ節」を採用。

活動の成果：テレビや新聞でも報道。生徒にとっては自身のスポーツが地域貢献につながる理解や主体的意識の向上になり、地域住民にとっては高校生と体を動かす楽しさを実感する機会となり好評。

（４）進路状況と田村高校生応援成金制度（給付型奨学金）

進路実績：大学進学３割、専門学校３割、就職３割（公務員含む）の割合がここ１０年ほど持続。推薦入試（特に指定校推薦）や総合的な探究の時間を活かした総合型選抜の利用が多い。国公立大（福島大・山形大・県立医大・会津大・琉球大など）にも毎年合格者を輩出。柔道部・ソフトテニス部から明治大、ウエイトリフティング部（普通科・全国２連覇）から法政大、陸上部から駒澤大など、部活動の実績を活かした有名私大進学も多数。普通科で部活と勉強を両立し、国立大（山形大工学部、琉球大農学部など）の難関試験を突破する「文武両道」の体现例もある。

応援成金制度：応募者は約４０名、うち選考を経て約２５名に給付（３年間継続受給も可能）。選考基準はスポーツ実績、勉強面、将来のビジョンの明確さ。PTA役員も小論文審査や面接に携わる。使い道はスポーツ科の遠征費・食糧費補助、普通科の参考書購入、文化部の専門指導費などに充てられ、保護者・生徒双方から好評。

今後の課題：国立大学への進学者が減少傾向にあり、生徒数減少の影響が懸念される。

２ 情報交換・質疑応答

○小名浜海星高校：「田高体操」を高齢者デイサービスで実践してみたい。どこかで動画ややり方を見ることはできるか。

田村高校：YouTubeに動画がアップロードされている。「田高体操（でんこうたいそう）」で検索すれば誰でも視聴可能。

○福島高校：特進科などの進学に特化したクラスはあるのか。普通科の生徒が素晴らしい進学実績を上げている理由を知りたい。

田村高校：２年生のクラス編成時に特進クラスを１クラス設けている。他のクラスに比べて勉強量は多く、学校側でも手厚い対策を行っている。

○福島高校（PTA副会長）：応援成金制度の実績（人数、３年間の継続可否）と、三春町・同窓会からの予算がどのように使われているのか詳細を知りたい。

田村高校：応募約４０名に対し給付は約２５名。３年間連続での受給も可能。予算は町から約３００万円、同窓会から約１００万円で、生徒を応援したいという厚意のもと上記使途に広く活用されている。

○参加者意見（感想）：奨学金申請のために小論文を書き、将来のビジョンを言語化すること自体が、生徒にとって非常に良いトレーニングやモチベーション向上に繋がって

いる。英検の半額補助は、生徒が検定に挑戦するハードルを下げる大変活発で素晴らしい取り組みである。

●Ⅱ「多様化した時代の中での進路選択～未来を紡ぐ子供たちへ～」

いわき光洋高等学校 P T A 会長 門馬 啓哲

1 発表概要

(1) 学校概要

沿革と特徴：1993 年開校。日本初の全日制単位制高校。制服や厳格な校則がなく、生徒の自主性を尊重する自由な校風が特徴。校訓は『自主・自覚・自律』の「三自（さんじ）の精神」。

カリキュラムの特色：専門科目を多く設置。1 年次は基礎を学び、2・3 年次は興味・関心に応じて科目を選択し自分だけの時間割を作成する。

高大連携・技能審査：2005 年より近隣の医療創生大学と連携。大学の授業受講・試験合格や、文科省認定の技能審査試験合格による「単位認定」が可能。

規模と進路状況：令和 7 年度卒業生の進路は、4 年制大学が約 65%、専門学校が約 20%、短大が約 5%、就職が約 6%。5 年前と比較して進学中心であるものの、進路の多様化が進行。

(2) PTA に関連する進路活動

進路講演会：各年次で保護者対象の講演会を開催。年次主任・進路指導主任が生徒の状況や三者面談の内容を反映して講師へ依頼。

進路対策費の運用：課外授業や講演会の経費、進路情報誌の購入などは、保護者負担の「進路対策費」で賄っている。

(3) 学校アンケートから見えた課題

保護者側の課題：情報が足りない、情報収集が難しい、もっと早い段階からの進路指導を希望する声がある。

生徒側の課題：将来やりたいことがわからない、進路の決め方がわからない、学部や学校を絞り込めない。

学校側の想定対応策：こまめな進路情報発信、進路に応じた個別個別対応、職業観を広げる機会の拡充、保護者向け進路情報サイトの紹介、生成 AI を活用した進路指導の効率化など。

2 情報交換・ディスカッション(3 グループに分かれてディスカッションを実施)

【A グループ報告】

職業観ベースの選択：学力選択だけでなく「何をやりたいか（部活・就職・スポーツ等）」が最も重要。文系が得意でも理系職を目指すケースがあり、単純な文理選択に留

まらない難しさがある。

スポーツ進学の実績：スポーツに励む生徒は、高校と大学の先生とのパイプ・繋がりから具体的な道筋（複数の選択肢）を提示してもらえる良さがある。

親子の対話の重要性：子どもとの対話が減少傾向にあるが、対話なしには本人の意思を把握できずアドバイスもできないため、日頃のコミュニケーションが極めて重要。

学校情報の届きにくさ：学校側は多層的な情報を発信しているが、生徒に届ききっていない課題がある。三者面談を意見擦り合わせの場として活用し、選択肢を固めていく必要がある。

ツールの活用：大学 HP のほか、AI の活用、必要な資格取得までの年数・ルートの逆算を進路選択の要素としている。

【B グループ報告】

子どもの自主性の尊重：進学・就職ともに、一貫して子どもの自主性を重んじ、親はサポート役に徹するのがベスト。

多様化する入試への対応：総合型選抜など受験方式が多様化しているため、三者面談や進学説明会で親自身も積極的に情報を集める必要がある。

就職における親のサポート：就職に関しては学校側のサポートが手薄に感じられる場面もあり、保護者が積極的に情報（試験方式や面接対策）を収集・提供した事例がある。

早期のビジョン形成：進学校では早い段階から進路選択を迫られるため、ぼんやりとでも早期にビジョンを持つためのコミュニケーションが大切。

親としての究極の役割：アンケート結果によると、受験期に子どもが親にされて一番嬉しかったことは「自分の意見を聞き、任せてくれたこと」「普段通り接してくれたこと」「健康やバランスの良い食事に配慮してくれたこと」が上位を占める。特別扱いせず、普段通りの生活と健康管理を心がけることが大切。

【C グループ報告】

情報の取得方法：学校や PTA 主催の年次ごとの「進路セミナー」を通じて段階的に得る。また、学校主催の大学見学会への参加。東京の大学の文化祭に足を運ぶことは、大学のリアルな雰囲気を感じられ生徒にとって非常に有益。

積極的な情報発信元の活用：東京の私立大など、毎週・毎月熱心に情報発信を行っている大学のシステムに登録しておくことで、有益な情報が得られる。

進路決定のプロセス：基本は生徒自身の興味・関心。曖昧な場合は保護者からの「どうなりたいか」という問いかけで具体化を促す。また、教員との会話や、学校に遊びに来る卒業生（大学 1 年生など）とのフランクな交流から、HP には載らない「裏のリアルな情報」を聞くことで目標が具体化しやすい。

早期決定の弊害：あまりに早い段階で進路を決めすぎると、生徒自身が「縛られ感」に苦しむケースもあるため、ゆとりを持った柔軟な対応も必要。

●Ⅲ 指導助言

福島県教育庁 高校教育課 指導主事 鈴木 美紀子

(1) 各校の取り組みに対する感想・評価

田村高校の事例：行政（三春町）・同窓会・PTA・教職員の4者が同じ方向を向き、一体となって子どもを支える素晴らしいモデルである。三春滝桜の観光を盛り上げる活動や、地元和菓子店（かんのや）との共同商品開発など、生徒の姿が可視化されているからこそ、町からの大きなバックアップ（予算支援）に繋がっている。高校教育課としてもこうした学校の魅力を積極的に発信していきたい。

いわき光洋高校の提起：この会議だからこそ、他校の様子や保護者のリアルな接し方が見えた意義深いディスカッションであった。

(2) 現代の子供たちの特徴と視野の広げ方

タイパ重視とダイバーシティ：今の子供たちは多様性が当たり前の環境で育ち、フラットで合理的な「タイパ（タイムパフォーマンス）重視」の傾向がある。

情報社会の罫（視野の狭窄）：ネットやSNSのタイムライン等で大量の情報に触れている反面、自分の興味のある情報しか見えなくなり、かえって視野を狭くしている側面がある。

保護者の役割：保護者側から「こういう視点や世界もあるよ」と提示してあげることによって、子どもの可能性を広げることができる。

(3) 現代ならではの繋がりとサポートへの助言

他者の立場を柔軟に受け入れられる構えがあり、リアル・ネットを問わず自由につながりを構築できるのが今の強み。大学見学で知り合った実際の大学生と連絡を取り合い、ネットを介して受験アドバイスをもらっているケースも多い。

子どもたちが試行錯誤できる「余白」をうまく保持しながら、大事な分岐点において保護者の皆様には温かいサポートをお願いしたい。1) 発表校への謝辞

白河旭高校（鈴木様）、原町高校（只野様）の発表に対する感謝と、非常にわかりやすく丁寧な説明であった旨のねぎらい。

参加されている各学校のPTA活動・広報紙制作の素晴らしい取り組みに対する評価。

●IV 閉会（司会）

郡山高等学校 PTA役員 安斎 拓郎

- ・第3分科会の終了案内、および活発な意見交換・情報交換への感謝。
- ・今回の成果を各学校に持ち帰り、今後のPTA活動の活性化に繋げてほしい旨の挨拶、および忘れ物と足元への配慮を促し解散。

第 4 分 科 会（健全育成委員会）

問題提起者：郡山東高等学校 P T A 会長	鈴木 伸康
「福島県立郡山東高等学校の取り組み」	
問題提起者：福島商業高等学校 P T A 会長	志賀 学
「あてになる人、目の離せる人、心身ともにたくましい人を育てる P T A 活動」	
司 会：須賀川創英館高等学校 P T A 会長	吉田 陽之
指導助言者：福島県教育庁 高校教育課 指導主事	江川 篤
記 録 者：あぶくま柏鵬高等学校	
世 話 役：白河実業高等学校	

● I 「福島県立郡山東高等学校の取り組み」

郡山東高等学校 P T A 会長 鈴木 伸康

① 発表概要

大正 12 年、実業補習学校令により郡山実践女学校として郡山第二尋常高等小学校内に創設されました。その後、改称を経て昭和 23 年、学制改革に伴い福島県立郡山女子高等学校と改称し、県内の女子教育・家庭科教育の中心校として歩んできました。

1953 年には全国家庭科研究会が開催され、家庭科教育の発展に向けた研究発表などが行われました。また、幼児教育に関心が高まる中、県内で初めて保育科が設けられました。平成 10 年、男女共学に伴い福島県立郡山東高等学校と改称し、現在に至ります。

令和 3 年に創立 100 周年を迎え、「学べ・創れ・生きよ」を校訓に高い志を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する学校として教育活動を展開しています。

ボランティアに力を入れており、オリジナルのボランティア活動としてレモネードスタンドを開催し、その売上げを小児がんの支援団体へ寄付しています。

陸上競技において、日本記録保持者や国体出場者を輩出するなど、運動にも大変力を入れている学校となります。

以上が簡単ではありますが、郡山東高等学校の概略となります。

P T A の健全育成活動への取り組みについて、あいさつ運動・校外自主補導・生徒会役員との懇談会の 3 つに分けて発表します。

6 月と 10 月の衣替えに合わせ、月初めに生徒指導部の先生と協力し、あいさつ運動を行っています。P T A が並び登校してくる生徒へ「おはようございます」と挨拶をする活動です。健全育成委員会の役員だけではなく、本部役員も参加していることが特徴です。

生徒の登校を見守ると共に、本部役員と各委員会役員との意思疎通の場としても機能していると思います。各委員会の活動へ本部役員が積極的に参加することで、風通しの良い P T A 活動が実践できています。

校外自主補導について、昨今の働き方改革により、先生方の時間外勤務を見直し、学校生徒指導部の校外補導が削除されました。

そこで郡山東高校PTAは、学校主導ではない独自の活動を計画し、8月の「うねめ祭り」、9月の「安積国造神社秋季例大祭」にて、本部役員を中心に独自の補導活動を行いました。今後、他校でも同様の活動が行われる可能性もあり、その先駆けとなる活動であると考えております。

生徒会役員との懇談会について、PTAの活動はどうしても役員と先生、担当職員を窓口にしてのやりとりが多く生徒が望む環境整備については、なかなか自分の子供以外からの情報が入ってこない現状がありました。そこで、生徒会役員との懇談会を開催し、生徒が望む環境整備を聞き取る機会を設けました。学校の器具やカーテンを新調してほしい、近年の猛暑を鑑みて冷房期間の延長や、緊急時の生理用品の補充など、様々な意見を生徒から直接聞くことができ学校への提案やPTA活動の参考にすることができました。

以上、郡山東高校PTAは、この3つを行い、主体的・積極的な活動をすることで保護者同士、保護者と学校、保護者と生徒とのコミュニケーションをとることに成功していると自負しております。他校におきましても、形式・前例にとらわれない活動の参考になれば幸いに存じます。

② 質疑応答

安積黎明高等学校 PTA役員 三部香奈

ボランティア活動について、具体的にはどのような形で生徒に関わりを推進しているのか？レモネードスタンドについて、開催（販売）場所や時期等を教えていただきたい。

郡山東高等学校 教諭 菅野正徳

学校へボランティアの案内があった際には、生徒に通知し参加者を募ります。

各部活動にて、お正月やお参りを兼ねて清掃活動等を行うこともありますし、ボランティアの気持ちを持って活動できるように、生徒へ働きかけをしております。

郡山東高等学校 PTA会長 鈴木伸康

レモネードスタンドは常時開催ではなく、校内体育祭内でのイベントとして開催をする、保護者からの依頼があれば出張して開催をしていると伺っております。

昨年ですと、郡山市内の病院まつりや商工会議所のイベントに出店して、温かいものや冷たいものを作って販売し、その売り上げを寄付しました。

生徒達も、がん患者さんの治療方法などの話を聞いて、内容をよく理解したうえで参加しているので、自分たちの活動の意味をよく感じながら参加しているように思います。

●Ⅱ「あてになる人、目の離せる人、心身ともにたくましい人を育てるPTA活動」

福島商業高等学校 PTA会長 志賀 学

① 発表概要

福島市のシンボル、信夫山のふもとにあり吾妻山を仰ぎ見てそびゆる麓が福島商業高校です。保護者と連携協力して、地域経済を担い、未来に羽ばたく若人を育てています。

本校の創立は、明治30年です。来年度、創立130周年を迎えます。平成30年福島県高校改革基本計画で職業教育推進校に指定されています。

令和2年のNHK朝の連続ドラマ「エール」は本校の卒業生、音楽家の古関裕而さんがモデルであり、このことは本校生徒の大きな誇りであります。本校の校訓は、信義全力・不撓不屈であり、あてになる人の育成・目の離せる人の育成・たくましい人の育成が教育目標です。情報・経営・会計の3つ専門学科が、「情報・経済・販売・会計・商品・金融・観光・マーケティング・コミュニケーションスキル等の専門知識を学び探求を行います。

文部科学省が進める、学びの改革、個別最適化した学習、多様性を重視した学習を行っています。県指定の職業教育推進校ですが、近年の卒業後の進路は就職が3割、進学が7割程度と多くなっています。

本校のPTA活動は、各クラス2名の役員によって編成される委員会に所属して研修会や交通安全指導・広報誌の発行等への参加活動が中心です。進路対策・健全育成・調査広報・厚生の4委員会があります。

近年、保護者・教員の多忙化解消のため、以前行われていた研修旅行や教養講座によつての親睦をはかるようなことはしていません。

進路対策委員会は、校内での進路指導部と各学年による進路説明会を開催し、生徒と保護者に参加していただき進路決定に役立てていただきます。

健全育成委員会は、6月・9月・12月の年3回、教員と保護者により、街頭での交通安全活動を行います。通学路内の交差点等に出向き、交通ルールを守つての自転車走行と歩行者の安全を見守ります。

調査広報委員会は、年2回のPTA会報「しのぶ野」を発行しています。学校の様子を、保護者の皆様に取材していただき、保護者目線で編集し発行しております。12月の広報誌コンクールに参加することも目標にしています。

厚生委員会は、9月・2月の年2回、学校保健委員会に参加し生徒の健康について教員・学校医とともに考えていただき、コロナやインフルエンザの感染防止の大きな力となっています。経済的支援活動につきまして、PTA会費・教育活動後援会費・空調会計・進路指導運営費によつて教育活動の様々な部分で支援をしていただいております。特に、教育活動後援会には部活動の大会出場を支援いただいております、多くの部の東北大会・全国大会出場に繋がっております。

空調会計は平成29年から始まっており、福島県からの補助金制度より早く保護者の賛同で教室にエアコンを設置することができ、その先見性に感謝しております。

その他のPTA活動として、教員の服務倫理委員会へ参加をします。年1回、教員研修の場に参加いただき教員の研鑽の様子をご覧ください。

また、3年に1回の福商祭では食堂を運営し盛り上げていただいております。

続いて、健全育成活動についてお話いたします。

初めに交通安全指導活動です。毎朝、教員による校門での登校指導を行います。

4月には全生徒への交通安全教室を行い、JAFの講師に來校いただき自転車の法改正につ

いて詳しくお話いただきました。5月には自転車車体の一斉点検指導を行い、安全な車両に乗ることができるよう、点検等も含め指導しています。

その他、ホームルームでの危険予測学習、警察との連携による登校指導、ヘルメット着用促進の呼びかけ、任意保険加入の徹底を行っています。

交通安全以外の健全育成指導について、1つ目は身だしなみを整える指導を行っています。1年生は制服業者の社員をお迎えして、制服着こなしセミナーを開催します。各学期の始業式終了後に服装指導を行い、3年生は総合実践の授業でも行います。働く人の心構えとして服装を整えることには、学校としても重点を置いています。

2つ目は心のケアを行っています。各学期始めに生活アンケートを実施して生徒の様子を把握し、クラス担任による面接や必要により学校カウンセラーのカウンセリングを受けることを勧めています。3つ目は、保健指導と食育指導です。保健指導は、毎朝の健康調査をホームルームで行い養護教諭に報告し、生徒の健康を把握します。食育指導は、家庭科の授業にてバランスの良い栄養摂取について調理実習とともに行います。

4つ目は、いじめ防止です。校長を中心にいじめ防止の徹底と対応を行い、アンケート調査によりきめ細かいいじめ認定を行うことによって重大案件に発展しないよう対応しております。SNSの利用制限においては、全校集会での指導やホームルームでの啓発を行っております。

次に現在の本校の課題を2つ挙げさせていただきます。1つ目は、自転車通学時のヘルメット着用率の低いことです。全校集会で生徒指導部より啓発を行いますが、なかなか全員着用とはなりません。着用は努力義務であり強制はしていません。

2つ目は、4月の登録時には全生徒が何かの部活に加入しますが、中には活動の実態のない生徒が出てくることです。部活動と学習の両立による人間形成を目指しており全員加入を原則としていますが、一方で大人としてこれから自分に責任を持つという観点から、選択の自由を持たせることも必要だと考えています。

最後に、福島商業高校は、福島県の目指す職業教育推進校として社会に貢献する、心身共にたくましい自立＝自律した人に育てるために保護者と学校が両輪として子供を支え、様々な場面で連携協力して教育活動を行っています。

今後も、甘んじることなく、保護者と学校が連携協力した教育活動を継続し校歌に謳われる、吾妻の嶺よりなお高い理想を目指して創立130年の歩みを更に伸ばしていく所存であります。

② 質疑応答

平工業高等学校 PTA役員 戸田亜沙美

部活動の全員加入について、昨今、教員の働き方改革等もあり部活離れが進んでいると思われますが、必ず部活動へ入るように生徒を指導したり、声がけをしたりする学校の取り組み方を知りたい。

福島商業高等学校 教諭 吉井秀樹

発表にもありました通り、部活動と学習の両立による人間形成を目標としており、全員加入を原則とし4月に登録しています。教員においても、校務分掌ということで校長より任命があり指導にあたるのが、学校の指導方針となっております。しかし、上級生になると学校外の活動等もあり部活動に参加できない生徒もいるのが現状です。自分の行動に責任を持つ意味でも、部活動に登録・在籍だけして活動実態のない幽霊部員のようなことのないよう退部や転部の手

続きをきちんとし、その後の活動については学校が管理、把握できるようなことは必要だと思います。加入の自由については認めるべきとの議論は校内にあります、現状は本校の指導方針を生徒に理解してもらい、部活動への全員加入を継続しております。

平工業高等学校 P T A役員 戸田亜沙美

素晴らしい学校だと思います。ありがとうございました。

郡山東高等学校 P T A役員 鈴木伸康

自転車通学のヘルメット着用について、着用率が低いというのはどの学校でもあると思うのですが、着用したあとに置いていたら盗まれた等、置き場所や保管場所のことも着用率が上がらない要因かと思われますが、福島商業さんは保管場所等、どうされていますか？

福島商業高等学校 教諭 吉井秀樹

生徒の荷物を置くスペースが少ないのが現状です。ご質問の通り、私もヘルメットをどこに置くのかな？と思ってしまいました。とくに、ヘルメットの保管場所は指定しておりません。個人のロッカーはありますが、多くは教科書等を入れているようです。

教室の後ろ側にハンガーを利用して置く、二重ロックをしている自転車とともに保管してもらうことが考えられます。運動部を中心に、命の大切さという点でよく理解してもらい着用率は上がってきていますが、髪が乱れる等や着用が努力義務ということもあり、全員着用が望ましいとは思いますが、自分の行動に責任を持つ、自分の命は自分で守るという観点からも強制はしていません。

郡山東高等学校 教諭 菅野正徳

質疑ではないのですが、ヘルメット着用の話が出ましたので、もう義務化している学校さんや、いつ頃から義務化した、どのようにして義務化したのか等の意見が聞ければと思います。ちなみに、郡山東高校では義務化の話は進んでおらず、P T Aでも進めた方が良いでしょうと議題になり、他校の取り組み等もお聞かせ願えればと思います。

平工業高等学校 P T A役員 戸田亜沙美

本校は、駅から遠いこともあり7割が自転車通学という学校になります。年間に数件、自動車との接触事故があり、坂道が多いことから大きな事故に繋がってしまうのが特徴です。

10年程前には、死亡事故も発生しており、その事故で亡くなられた方のご両親が、平工の近くに交通安全慰霊碑を建ててくださり、新入生の自転車指導の際にその石碑の話をしたり、ヘルメットを着用していないと保険適用にならない旨や、自分の身は自分で守らなくてはならないこと等を先生に冗談を交えながらお話してもらっています。

年に2回以上は自転車についての点検や指導を行っており、工業系の生徒も多いことから自転車についても詳しくなり、自分の身を守ることに繋がっていると思います。

他校(中学校等)からも、なぜ平工さんはヘルメット着用率が高いの？と聞かれるのですが、生徒各々の自己管理能力を高める指導や伝え方を徹底するしかないと思います。

自分の身は自分で守らないといけないことや、万が一の時の補償や賠償(加害者になった場合)がどうなるかを強めに伝えて、自分で自覚を持ってもらうことが一番かと思います。このような考えを育てる教育も取り入れていただければ、ヘルメットの着用率アップに繋がって

いくと思います。

校内でアンケートをとらせていただき、通学路等での危険箇所や自転車の法改正が施行されてどう変わったかなど、生徒だけではなく先生方にも道路を走行する自動車目線からの意見も生徒へ知らせていければと考えておりますが、まだ計画段階です。

子供たちのために何ができるか？と考えた時に、全ては知ることから始まると思いますので、まず保護者やPTAがヘルメットの重要性を学習・理解して、まわりに広めて知っていただくことが、大事かと思います。知ることにより、交通安全にも気を付けますし、行動も伴うと思いますので、すべては学習からなのかなと思っております。

須賀川創英館高等学校 教諭 金澤勝敏

本校は、一年前からヘルメット着用を義務化し、現在は1年生が強制、2・3年生が努力義務となっており、来年度以降は全学年ヘルメット着用となる予定です。

髪型の乱れを防ぐために、学校の近くになってから着用する生徒や、ごまかそうとする生徒もいて苦労していますが、着用率は上がってきていますので、引き続き指導を徹底していきたいと思います。自転車で走行中に転倒し、ヘルメットを着用しておらず頭を打った事例もあり、そのあたりの危険性も含めて指導しております。

ヘルメットの保管状況について、今のところ盗難はありません。自転車のカゴに鍵をかけて入れておいたり、リュックバックに入れて教室へ持ち込んだりしています。教室の机等に掛けてはいないようです。本校は、年次移行という形でヘルメット着用率を上げております。

平工業高等学校 PTA役員 戸田亜沙美

本校でも髪型が崩れるのでヘルメットを着用したくない生徒は多いです。(特に女子生徒) 逆転の発想で、生徒会と連携して髪型が崩れても直せる環境(例えば、ヘアーアイロンの持ち込みを許可する等)を柔軟に対応していただき、整えれば良いのではないかと思います。朝早く登校すれば、学校で髪を直せるとか、登校時間が早まることにも繋がり、良いのではないかと思います。生徒会と連携して活動をする 것도大変良いことだと思いましたし、良いお話を聞かせていただきありがとうございました。

須賀川創英館高等学校 教諭 金澤勝敏

うちの学校ではヘアーアイロンは難しいと思われます。生徒がプラスに解釈してくれれば良いのですが、そうではない場合もありますので、理解を進めていかなければと思います。

学校の電源を使うことに問題があるので、うちでは、ヘアーアイロンを使って髪を直して良いという指導はできかねます。

平工業高等学校 PTA役員 戸田亜沙美

学校によっては、そういう異論もたくさんありますよね。

須賀川創英館高等学校 教諭 金澤勝敏

学校の電源を使うこと自体に問題がありますので。

福島商業高等学校 PTA会長 志賀 学

色々と発言していただき、ありがとうございました。私も平工業さんの近くの私立学校に通

っていましたので、通学路に坂道が多いことは知っております。今後、学校や生徒会も交えて髪型が乱れる問題については、充電式のヘアーアイロンもある・・・

平工業高校高等学校 P T A役員 戸田亜沙美

あります、あります。今、充電式があつてコンパクトで、うちの娘も持ち歩いています。そういうのも使用して良いとなれば、学校の電源も使いませんので、協議していただければと思います。

福島商業高等学校 P T A会長 志賀 学

そうですね。それが、自分たちの安全に繋がるようであれば、それはそれで私は良いと思いますので、あとは学校側と協議していければと思います。大変、貴重なご意見ありがとうございます。

●Ⅲ 指導助言

福島県教育庁 高校教育課 指導主事 江川 篤

日頃より、各校においてP T A活動に、ご理解・ご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。福島商業高等学校と郡山東高等学校の皆様におかれましては、ご多忙のところ分科会にて発表いただき誠にありがとうございました。昨今、社会や教育環境が大きく変化する中において、子供たちの健やかな成長のためには学校と家庭、地域が連携を深めることが何よりも大切であり、P T A活動の役割も益々重要になってきております。

各校の健全育成委員会では、先ほど発表された二つの高校のように子供たちの健全な心身の育成を目的として地域や学校と連携しながら、様々な活動を推進していることと思います。本大会のテーマ、「継続」と「挑戦」これまでとこれからと新たな子供たちの未来へ にあるように、登下校の見守り活動やあいさつ運動、講習会の開催等の実施など、保護者・地域住民、教職員が一体となって取り組む姿が先ほどの発表からも多く見られ、子供たちに良い影響が表れていることが感じられます。

まず、郡山東高等学校の発表では、あいさつ運動・校外自主補導、生徒会との懇談会ということで、とくに生徒会との懇談会ではヘルメット着用の部分の話でもあったのですが、

校則の見直しについて、色々と規定があるのですが、近年、児童・生徒の人権尊重、多様性への配慮、社会通念や地域実情との整合性との観点から、各学校において普段の見直しを行うことを求めています。文科省の生徒指導提要においては、校則等を学校のみで一方的に定めるのではなく、生徒や保護者等が参画し合意形成をはかりながら見直し等を進めることの重要性が示されています。そのため、P T A健全育成委員会等が校則等の見直しに参加することは、学校・家庭、地域が連携し社会に開かれた教育課程や信頼される学校づくりを推進するうえでも意味深い取り組みだと考えております。

守らせる校則から、納得して守る校則へ転換しなくてはならないと考えています。校則等は、生徒の安全確保や学校生活の秩序維持を目的とするものでありますが、その内容や運用については生徒自身が、必要性や合理性を理解して主体的に考えることが重要です。健全育成委員会等においても、現在の校則が時代や社会状況に即しているのか、生徒の実態や多様性への配慮がなされているのか、学校生活上の安全や安心に繋がっているのか、保護者の立場から建設的

な意見交換を行うことは非常に大事かと思います。対話的な学校文化の情勢に繋がる視点からでも、校則の見直し等は、そのものが目的化するのではなく、生徒が自ら学校生活を考える経験、多様な意見を尊重しながら合意形成をはかる経験、学校と家庭が協同する関係作りを通して民主的で多様な学校文化を育成していくことが重要です。この健全育成委員会においても、学校を共に作るという視点で参画していただくことが、結果として生徒指導の充実や学校への信頼向上につながるものと考えていますので、この点などは先程あったヘルメットの着用や部活動の加入率の部分に参画していただければと考えております。

続いて、福島商業高等学校の発表では、交通安全活動や制服着こなしセミナー、心のケアのアンケート実施、とくに、いじめ防止に触れていただいた点などは、参考になったかと思えます。学校いじめ防止基本方針が各学校にて決められています、皆さんご存知でしょうか？皆さん、あまりご存知ではないですか。入学前のオリエンテーションで説明をしたり、学校のホームページに必ず載せたりしていただいていると思います。ぜひ、それを見ていただくことは大事かと思います。我々としても、学校いじめ防止基本方針を必ず説明してくださいと指導しておりますので、見ていただければと思います。PTAの健全育成委員会等を活用して、学校いじめ防止基本方針の理解促進や未然防止にむけた協力体制を構築していくことは、いじめ防止対策推進法や国のいじめ防止等のための基本的な方針の趣旨に合致する取り組みであり、大変意味のある方向性の活動になると思います。

高等学校段階では、SNS上のトラブル、仲間関係の固定化、保護者が実態を把握しにくい事案など、いじめの対応が多様化・潜在化する傾向があります。そのため、学校だけで抱えるのではなく、家庭・地域・PTAと連携した社会総がかりでの未然防止が重要となってきます。そのため、各校においてはPTA組織と連携を検討することはすごく大事だと考えています。基本方針においても、定期的な見直しが求められています。その際に、PTA健全育成委員会等から保護者として感じる課題や、SNSに関する家庭の実情、学校への期待、地域の状況について意見をいただくことは、より実態に即した方針改善に繋がるものと考えています。各学校においては、PTA健全育成委員会等で単なる行事組織ではなく、いじめの未然防止を共に担うパートナーとして位置付けて、学校いじめ防止基本方針の周知・理解、協同の充実をはかっていたきたいと考えております。

本日の発表から、今後の健全育成委員会の活動をより効果的且つ持続的に進めるために、感じたことは3つあります。1つ目は、子供たちの主体的な参加を促進するということです。今後の健全育成活動では、子供たち自身の主体的な関与を促すことが重要です。例えば、あいさつ運動や交通安全教室、生徒会との意見交換等の実施において、生徒が自ら企画・運営に参加するような仕組みを作ることが、子供たち自らの意識を高め、活動の効果をいっそう引き出すことができると考えております。2つ目に、地域との連携強化です。

学校内外の連携を深めるために、地域住民や自治体との協力関係をいっそう強化することが求められています。例えば、地域住民や企業と共同で地域安全パトロールや地域清掃活動など実施し、地域全体で子供たちを見守る意識を高める取り組みを進めることも重要です。地域と一体となった活動は、子供たちにとっても学びや成長の場となります。

最後3つ目として、保護者との情報共有を徹底するということです。PTA活動に対する理解と参加を促進するためには、保護者への情報提供が不可欠です。学校行事やPTA活動の目的、進行状況、成果については定期的に報告し、保護者がどのように関与できるのかを具体的に示すことが大切です。情報発信方法を工夫し、LINEやメール、学校のインスタ、SNSなどを活用して迅速且つ効果的に連絡を取るように心がけることが重要です。

本県において、令和4年度から始まった第7次福島県総合教育計画においては、すべての子供に必要な資質・能力の育成とともに、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せである

ウェルビーイングの実現を目指して、施策を展開させております。本日の発表のような取り組みは、まさに県で目指しているウェルビーイングの実現にとって大切な取り組みであると、感じたところであります。また、働き方改革という声が聞かれるなか、PTA活動においても保護者の負担軽減という点から、より柔軟な運営方法を考えることが求められる時代となっております。様々な立場でアイデアを出し合い、健全育成委員会の活動がより充実し、地域全体で子供たちを支える体制が強化されることを期待しています。

結びに、各校のPTA役員の皆様には日々の忙しい時間の合間を縫って、本大会の準備・運営にご尽力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

本日はご多用の中、本分科会に参加いただき誠にありがとうございました。以上になります。

●Ⅳ 閉会式

須賀川創英館高等学校 P T A会長 吉田陽之

昨日に引き続き、二日間の分科会も参加者の皆さんと、多くの意見交換・情報交換ができ、とても良かったと思います。ぜひ、学校に持ち帰ってさらにPTA活動が活発になっていただければ幸いです。これをもちまして第4分科会を終了いたします。本日は、どうもありがとうございました。

第 5 分 科 会（調査広報委員会）

問題提起者：白河旭高等学校 P T A 会長 「調査広報委員会の活動について」	鈴木 裕哉
問題提起者：原町高等学校調査広報委員長 「P T A 会報『きんもくせい』について」	只野 憲子
司 会：湖南高等学校 P T A 会長	二瓶 幸子
指導助言者：福島県教育庁 社会教育課 社会教育主事	新田 和則
記 録 者：清陵情報高等学校 P T A 担当	大原 春夫
世 話 役：修明高等学校	

● I 「調査広報委員会の活動について」

白河旭高等学校 P T A 会長 鈴木 裕哉

1 発表概要

(1) 本校の概要

沿革と特徴：大正 3 年に白河町立実科高等女学校として開校。平成 9 年に男女共学化し現校名に改称。白河地域で最も歴史が古く 2026 年で創立 112 年目を迎える伝統校。

規模：各学年 4 クラス（全 12 クラス）。生徒数 467 名（男子 191 名、女子 276 名）。

教職員数 36 名。

伝統行事：生徒会主催の「新入生歓迎ダンスパーティー」は 175 年の歴史があり、同窓会や地域からも見守られる伝統行事。また、3 年に 1 度「旭祭（公開文化祭）」や「体育祭」が開催される。

(2) 調査広報委員会の組織と選任

人員構成：各学年から保護者 5 名ずつ計(15 名)と担当教員 2 名の計 17 名で構成しています。選任における工夫と課題として、新入生の保護者から役員（クラス委員 20 名）を選出する際、1 年生の保護者の約 8 人に 1 人が対象となるため選考に苦勞を伴う（決定しない場合はくじ引き等で対応）。

一方で、学年委員長や副会長などの重責については、3 月の合格発表時に「PTA 活動への参加・経験に関するアンケート」を配布・回収し、その情報をもとに事前にアプローチを行うことで、スムーズな選任を実現している。また、2・3 年生の委員は前年度からのスライド制を採用している。

(3) PTA 広報誌(新聞)『(いしずえ)』の制作活動

年 2 回（7 月、12 月）の発行に向け、1 回につき約 3 回の編集会議（構成検討・写真選定・校正作業）を実施。

＊【7 月号（4 ページ構成）】

- 1 面：校長・生徒会長・PTA 会長等の挨拶、1 年生のクラス写真および紹介。
- 2 面：3 年生のクラス写真・コメント、部活動の大会結果。
- 3 面：伝統のダンスパーティー(昭和 26 年はじまり)特集、部活動紹介（勧誘を含む）。
- 4 面：教職員紹介（趣味や意外な一面など）、編集後記。

＊【12 月号（4 ページ構成）】

- 1 面：創立周年記念記事（周年行事がない年は芸術鑑賞や吹奏楽部定期演奏会）、夏の部活動結果。
- 2 面：校内球技大会特集（写真と出場者コメント）。
- 3 面：2 年生の修学旅行特集（行先は事前アンケートで決定、本年度は沖縄）。
- 4 面：1・3 年生の遠足特集、体育祭または合唱祭の様子。

（4）調査広報委員へのアンケートと今後の課題

委員会に所属する保護者（約 15 名）を対象に実施したアンケートの要約。

- ・継続を希望する内容：遠足・修学旅行・文化祭・体育祭などの行事特集（90%以上）
- ・クラス紹介・球技大会・教職員紹介（70～80%）。
- ・削減してもよい内容：避難訓練、各種セミナー、PTA 視察研修、朝の挨拶運動。活動のメリット（やってよかった点 抜粋）
- ・行事の写真撮影を通じて、家庭では見られない子どもの生き生きとした姿や学校の雰囲気を感じられた。
- ・広報誌が共通の話題となり、子どもとの会話が增えた。
- ・3 年間継続する委員も多く、保護者同士や先生との繋がりが深まった。

苦労した点・今後の課題

- ・膨大な写真からの選定やレイアウト作業の難しさ。
- ・夜間の会議（18:30 開始～長引くと 21:00 前まで）における子どもの待機問題。
- ・予算の兼ね合い（印刷費の高騰によるカラー維持への懸念）。
- ・連絡手段の効率化（手紙の紛失を防ぐため、メールや LINE の活用を希望する声あり）。

その他

- ・学校で行うイベントの写真を委員が撮影できるのはうれしい。今後も続けてほしい。
- ・自分の子供の写真をもらえたらうれしい。
- ・広報誌のサイズが大きいので、手に取りやすいサイズにしてはどうか。
- ・高校に出入りすることで学校の雰囲気を感じることができた。
- ・調査広報委員会の集まりを、メールやラインでいただけるとよい。（子供が忘れて文書を渡さないことがある。）
- ・委員は 3 年間継続ということで、3 年生の委員の方が積極的にアドバイスをしてくれたので安心して活動することができた。
- ・カラーできれいに印刷できているが予算やナフサの問題で白黒印刷になってしまうのではと冗談で話がでた。

最後にこの発表が皆さんの学校の広報誌制作の一助となれば幸いです。

2 情報交換・質疑応答

○原町高校 誰のために：誰に向けて、どんな内容を設定して広報誌を作っているのか。携

わった人は熱心に読むが、携わっていない一般の保護者や生徒に読んでもらうにはどうすべきか。

白河旭高校：目的としては保護者全体や生徒みんなに見てほしいと考えている。しかし、実際にアンケート等の声を聴くと、やはり制作に携わった方の熱意が突出しているのが現状である。携わっていない人に無理やり見せるのは至難の業（非常に難しい）だが、関わった人にとっては非常にプラスな活動になっていると感じている。

○清陵情報高校 予算や紙の節約の観点から、広報誌の発行回数を年1回に減らすなどの議論はあるか。また、紙の代わりに SNS や動画、PDF ダウンロード形式にするなどのデジタル化への考え方はあるか。

白河旭高校：具体的な予算の都合で発行回数を減らしたり、カラーをやめたりするという話はまだ学校内で出ていない。他校ではダウンロード形式を採用している例も耳にするが、自身が保護者目線で考えた時に「わざわざダウンロードして見るか」という疑問がある。時代の流れでデジタル化が良いとなればそうなるかもしれないが、現時点では最低でも紙で配る形が良いと考えている。

○安積高校 本校でも予算逼迫と印刷費高騰に悩まされ、対策として印刷業者へ丸投げするのをやめ、無料デザインソフト（Canva など）を使ってデータを作成・入稿することでコストを抑え、誌面も自由に刷新できたという事例を共有。その上で、スマホ撮影によるトラブル防止のため、教員が学校行事でスマホ撮影できなくなり、広報委員が大量に写真撮影を行わなければならなくなった。こうした撮影制限に関する方針について質問。

○原町高校 現時点で広報誌はどのような形で保護者へ配布しているか。自校でも生徒を通じて配布しているが、本当に保護者の手元に届いているか、読まれているかの確認が難しいため、配布方法を知りたい。

白河旭高校：デジタルダウンロードなどの形式ではなく、昔ながらのスタイルで「学校から生徒を通じて保護者へ手渡し」という形で配布している。

指導助言者（新田 和則 様）：福島県教育庁の方針として、教員が個人のスマートフォン等で生徒の様子を撮影することは原則禁止の方向である（学校の実情や手続きにより例外もあるが、県としては厳しい方向性）。保護者の広報活動において写真撮影や編集のしづらさ、やりにくさがあるとは思いますが、現状は「できる範囲で工夫して行っていていただく」よう理解を求めたい。

●Ⅱ「PTA会報『きんもくせい』について」

原町高等学校調査広報委員長 只野 憲子

1 発表概要

（1）学校概要

①沿革と特徴：1939 年創立の相馬商業学校を前身とし、1948 年に原町高等女学校と合併して原町高等学校となる。2019 年に創立 80 周年を迎えた歴史ある進学校。相双地区の進学指導重点学校であり、例年多くの生徒が国公立大学へ進学する。

②規模と特色：生徒数は 1 学年 4 クラス、全校生 402 名。校訓は「共同責任」。学校の

シンボルは校舎口にある「キンモクセイ」。令和5年度より先進的・専門的な教育を行う「保健医療コース」と「教育コース」を新設。文武両道を掲げ、部活動（運動部10・文化部7）も活発である。

（２）調査広報委員会の組織と運営

- ①人員構成：各学年3～4名程度（計20名程度）の保護者委員と、担当教員3名で構成。
- ②運営の工夫：従来は年3回だった編集会議を、予算の都合上から回数を減らして運営。少人数ながら学年の垣根を越えて協力し合う、和気あいあいとした熱意ある委員会である。

（３）PTA会報誌『キンモクセイ』の制作活動

年2回（7月、3月）発行。限られた紙面の中で多くの写真を配置し、イラストやフォント、余白の活用にこだわった見やすい誌面づくりを徹底。全生徒の保護者が楽しめるよう、部活動紹介では全員の集合写真を掲載する工夫を行っている。

前期（第126号・7月発行）：入学式、PTA総会、教員紹介、生徒会役員紹介、進路状況、部活動紹介、合唱コンクール（ゆめはっと開催）特集などを掲載。明るい新年度を祝うため桜のイラスト等で華やかに構成。

後期（第127号3月発行）：会長・校長からの卒業生へのエール、3年生クラス委員長と保護者からのメッセージ、学校行事（柏葉祭・修学旅行・スポーツ大会）特集。

※3年に1度の文化祭「柏曜祭」は猛暑のため校内限定開催となり、広報委員が密着撮影を担当。アルバム風に写真を多数配置するため、予算内で収まる一回り大きな紙面を採用した。

（４）活動の成果と今後の課題

・委員および担当教員へのアンケートから抽出した成果と課題。

①参加して良かった点（成果）

- ・学校へ行く機会や子どもとの会話が減る高校生活において、学校の空気や子どもの生き生きとした表情を間近で感じられた。
- ・保護者同士や先生方との縦・横の交流が深まり、貴重な経験となった。
- ・教員側からも「多忙な行事中に保護者目線の写真を多く残してもらえて助かった」と好評が得られた。

②苦労した点と今後の課題：（委員）

- ・写真撮影と情報管理：個人情報保護の観点から撮影カメラの制限があり、写真確保に懸念がある。先生方の撮影はアングルが固定化しがちなため保護者撮影の拡大が望まれるが、委員が撮影に迫られ行事を楽しめなくなる懸念とのバランスが課題。
- ・持続可能な運営：働きながらの編集作業は負担が大きく、「大変そう」というイメージから今後の委員減少が懸念される。また、急な日程変更や連絡事項を文書だけで共有することの難しさがあり、効率的な情報共有方法の構築が必要。

③先生方から見た調査広報委員会の課題

- ・編集会議の連絡事項について文書だけでは伝わりにくい部分があった。
- ・急な変更など情報共有に課題があった。
- ・学校行事変更や予算の関係上、紙面の大きさや発行時期に制約があった。
- ・掲載内容やレイアウトを大きく変更することが困難。予算や編集会議の時間にもう少し余裕があればさらに工夫できたのではないかな・・・

④「きんもくせい」作成に携わってのまとめ

- ・毎回、先生方にも参加いただき、迅速な対応や協力をいただいたおかげで、より良い広報誌作りや雰囲気の良さに繋がった。
- ・PTA広報誌コンクールで各校の広報誌を見ることができ参考になった。
- ・先生方とも沢山の話ができたことで、高校生活を保護者自身も満喫できた。
- ・大変なこともあったが、活動できたことがとても楽しく思い出になった。

2 情報交換・質疑応答

○修明高校 保護者は広報誌の編集会議や作成作業にどの程度携わっているか。また、広報誌に掲載する写真の撮影や選定はどのように行っているか。

原町高校：編集会議の頻度：年1回の発行につき2～3回程度、1回あたり約1時間で実施。紙面の構成や内容について保護者と教員で話し合いを行っている。

- ・文章作成：主な文章は広報委員がある程度作成するか、生徒や教員へ寄稿を依頼している。広報委員が直接文章を書く機会は少なく、主に見出しやレイアウトの配置についての話し合いを中心に行っている。
- ・写真の選定：普段の学校行事写真は教員が撮影したものを使用している。広報委員側で掲載したい写真の要望をまとめ、担当の教員と打ち合わせを行って選定・決定している。すべての行事に委員が同行できないため、分からない部分は教員に依頼している。

○安積高校 広報誌のサイズが以前より一回り大きくなったとのことだが、これは予算に余裕ができたためか？それとも先生や保護者からの要望・意見があったからか

白河旭高校：中面のページ数を増やす形も検討したが、ページ増は予算オーバーとなってしまうため断念した。学校側に確認して最大限配慮した予算を確保しつつ、印刷会社と調整・打ち合わせを行った結果、予算の範囲内で用紙サイズを一回り大きく変更することが可能となったため、現在のサイズを採用した。

○参加者から各校への問いかけ及び意見等（広報誌のデジタル化（Web掲載・カラー化）についての意見）

- ・印刷物はコスト面や見やすさ（老眼等への配慮）の面で限界があり、紙面を白黒にする検討も出ている。
- ・一方で、保護者にとってはカラーで自分の子どもが写っている写真を見ることが楽しみの一つでもある。
- ・カラーでの閲覧やコスト削減を両立させるためにも、今後は朝日高校の事例のように、ネット上でのPDFダウンロード配信やデジタル化を検討していく必要があると感じている。

○参加校（教員側） ネット配信時における個人情報・写真掲載のセキュリティについて

- ・広報誌や写真をネット上に公開・配信する場合、子どもの写真や情報が不特定多数に流出してしまうリスクがあり、教員として懸念がある。保護者側としてはこのような

ネット公開について抵抗感や懸念がないか、意見を聞きたい。

※保護者側からの懸念

- ・子どもの顔写真が不特定多数に流出することは危険であるため、パスワード等でアクセスできる人を限定する仕組みが必要。
- ・卒業後は掲載データが削除されるなどの配慮や、ネットリテラシーに関する協議（教員・保護者間）が不可欠である。

※実際の対応事例（事例校より・安達高校）

- ・閲覧制限：生徒と保護者が利用する学校連絡アプリ（Classi 等）にログインしたユーザーのみが広報誌 PDF をダウンロードできるように限定公開している。
- ・動画コンテンツ：QR コードから閲覧できる動画は、YouTube の「限定公開（検索に引っかからない設定）」を活用してプライバシーを保護している。
- ・紙の配布削減：生徒の手渡し漏れを防ぐためにもアプリでの配信を活用し、必要に応じて生徒・保護者へ届ける運用を行っている。今後も行っていく予定。

●Ⅲ 指導助言

福島県教育庁 社会教育課 社会教育主事 新田 和則

（１）発表校への謝辞

- ・白河旭高校（鈴木様）、原町高校（只野様）の発表に対する感謝と、非常にわかりやすく丁寧な説明であった旨のねぎらい。
- ・参加されている各学校の PTA 活動・広報紙制作の素晴らしい取り組みに対する評価。

（２）PTA 広報委員会・広報紙の強みと魅力

- ・達成感とやりがい：企画、編集、話し合い、取材・インタビュー、記事作成、印刷（業者委託や自校印刷）など、多くの労力がかかるものの、活動の成果が「形」として残るため非常にやりがいがある。
- ・自由度の高さ：委員の工夫や創意次第で、より魅力的な広報紙に仕上げることができる。
- ・広報・PR の機会：各種広報紙コンクールや大会に応募することにより、成果を評価してもらう機会もある。

（３）各校の取り組みに対する感想

①白河旭高校の取り組み：

- ・入学と同時に PTA 広報紙を配付できるよう、早期から動き出しているフットワークの軽さが素晴らしい。

②原町高校の取り組み：

- ・年 2 回の発行に向け、保護者同士が熱い思いを持って話し合いを重ねて制作している点。制作側の思いが質の向上につながっている。

③共通する良い点：

- ・発行ペース：年 2～3 回という、継続しやすく適切なペースで制作されている。
- ・生徒の学習・学校生活の様子：担任による学級通信・クラス通信だけでなく、広報紙として写真付きで学校での様子（学習や行事）が伝わることで、保護者に喜びや安心

感を与えている。

- ・ 詳細なアンケートの実施：アンケートを通じて現状の課題を把握し、改善に努めている。
- ・ 地域への発信：学校関係者だけでなく地域にも配布・発信することで、学校の取り組みを気軽に知ってもらえる機会になっている。
- ・ 紙面デザインの工夫：写真のレイアウトや文字の見やすさなどを考慮し、読む人・見る人の視点に立って制作されている（各 PTA 内での適切な判断が重要）。

（４）個人情報・肖像権およびリスクマネジメント

①個人情報・肖像権の配慮：

- ・ 広報紙や地域配付・Web 掲載にあたっては、個人情報保護および肖像権の観点が必要。
- ・ 入学時や年度始めに保護者から受領する「個人情報掲載に関する承諾書」について、広報紙や Web への掲載が含まれているか学校側（担当教員や管理職）と必ず連携・確認を行う。
- ・ インターネット・Web 公開時の注意：
- ・ アクセス制限（パスワード保護）の導入検討や、メリットとリスク（セキュリティ面）を天秤にかけた運用が必要。
- ・ イラスト・素材使用時の著作権リスク：
- ・ インターネット上のフリー素材（いらすとや等）を利用する際、規約（利用制限や商用・非商用等の条件）の確認が必要。
- ・ 紙媒体では問題化しにくくても、Web 掲載時に自動検知ソフト等で規約違反が発覚し、違約金が発生するトラブル事例が出ている。
- ・ 対策：安全性を確保するため、PTA でイラスト素材ソフトを購入して使用する、あるいは事前に学校・PTA 内で運用ルールを相談しておく。

（５）さらに質の高い広報紙を目指すためのアドバイス

①企画・取材の工夫：

- ・ 依頼時に編集側でインタビュー形式を提案する。
- ・ 事前に保護者や生徒へアンケートを実施し、関心の高い最新テーマやアイデアを記事に取り入れる（例年のマンネリ化防止）。

②プロ（業者）への委託・ノウハウの吸収：

- ・ アイデア出しや編集作業に悩む場合、予算を計画的に計上した上で、一度専門業者に編集・レイアウトを全面的に委託してみるのも手。プロのデザイン手法や構成案を学ぶきっかけになる。

③PTA 活動自体の PR・バックステージの発信：

- ・ 校長・PTA 会長の挨拶や生徒・教育関連の記事だけでなく、「PTA が日頃どのような活動を行っているか」という裏側や頑張りを伝える記事を入れる。
- ・ PTA 活動にあまり積極的でない保護者に対しても、活動内容や熱意をアピールする機会になる（毎号でなくとも、編集後記や年 1～2 回のコーナーとして導入を推奨）。

④持続可能な運用の確立：

- ・ 広報活動の成功基準（ゴール）は数値だけではなく、担当した委員自身が「やってよかった」と感じる達成感や満足感にある。

（６）お知らせ・事業紹介「福島をセブンティーン（17）で奏でよう」

①事業の概要：

- ・福島県教育庁が主催する事業で、今年度で25年目を迎える家庭教育支援事業。
- ・小・中・高校生および保護者を対象に、日常の出来事や親子の想いをテーマにした作品を募集。

②目的と魅力：

- ・親子の多感な時期におけるコミュニケーションのきっかけや、一生の思い出作りとなる。
- ・入賞の有無に関わらず、家庭教育の充実や世代を超えた絆づくりに資する。

③応募・提出方法について：

- ・応募期間：9月上旬まで（来週より開始予定）。
- ・学校経由の配布プリントおよび、オンライン（二次元コード）からの直接応募（DX化）にも対応。

●Ⅳ 閉会（司会）

湖南高等学校 P T A 会長 二瓶 幸子

- ・第5分科会の終了案内および参加者同士の意見交換・情報交換に対する感謝。
- ・参加者の安全な帰路についての配慮およびネームプレート回収のご案内。

Ⅲ 大会役員名簿

大会会長・県高Ｐ連会長
 大会副委員長・同 副会長（県北地区高Ｐ連会長）
 大会副委員長・同 副会長（県南地区高Ｐ連会長）
 大会副委員長・同 副会長（会津地区高Ｐ連会長）
 大会副委員長・同 副会長（いわき地区高Ｐ連会長）
 大会副委員長・同 副会長（相双地区高Ｐ連会長）
 大会副委員長・同 副会長（県高Ｐ連事務局校長）
 大会副委員長・同 理 事（県高Ｐ連事務局長）

佐 藤 理 広（安積黎明高等学校ＰＴＡ会長）
 志 賀 学（福島商業高等学校ＰＴＡ会長）
 砂 川 信 一（光南高等学校ＰＴＡ会長）
 安 部 耕 一（会津西陵高等学校ＰＴＡ会長）
 戸 田 亜沙美（平工業高等学校ＰＴＡ会長）
 古 山 珠 美（小高産業技術高等学校ＰＴＡ会長）
 郡 司 完（安積黎明高等学校校長）
 味 原 正 美

大会実行委員長	
砂川 信一	光南高等学校ＰＴＡ会長

大会事務局長	
高橋 敏幸	光南高等学校校長

大会実行副委員長	
橋本 芳和	あぶくま柏鵬高等学校ＰＴＡ会長
上村 早苗	郡山北工業高等学校ＰＴＡ会長

大会事務局次長	
鈴木 絵美	光南高等学校ＰＴＡ副会長
大戸 初美	光南高等学校ＰＴＡ副会長
小林 和恵	光南高等学校ＰＴＡ副会長
豊田 則夫	光南高等学校教頭
植田 浩司	光南高等学校教頭
橋本 隆之	光南高等学校事務長

大会実行委員①	
伊藤 元治	安積高等学校ＰＴＡ会長
大原 綾	郡山東高等学校ＰＴＡ会長
箭内 邦行	郡山商業高等学校ＰＴＡ会長
安齋 拓郎	郡山高等学校ＰＴＡ会長
西間木 将	あさか開成高等学校ＰＴＡ会長
二瓶 幸子	湖南高等学校ＰＴＡ会長
吉田 陽之	須賀川創英館高等学校ＰＴＡ会長
江藤 大裕	須賀川桐陽高等学校ＰＴＡ会長
佐浦 寿雄	清陵情報高等学校ＰＴＡ会長
古川 千恵	岩瀬農業高等学校ＰＴＡ会長
道又 伸一	白河高等学校ＰＴＡ会長
鈴木 裕哉	白河旭高等学校ＰＴＡ会長
高橋 英司	白河実業高等学校ＰＴＡ会長
中野 賢栄	修明高等学校ＰＴＡ会長
川西 辰一	石川高等学校ＰＴＡ会長
入倉 智恵	田村高等学校ＰＴＡ会長
矢内 春男	あぶくま柏鵬高等学校小野校ＰＴＡ会長
高橋 清美	郡山萌世高等学校ＰＴＡ会長
磯部 勝恵	白河第二高等学校ＰＴＡ会長

大会実行委員②	
森下陽一郎	安積高等学校校長
津田 直子	郡山東高等学校校長
金内 建城	郡山商業高等学校校長
鈴木 哲	郡山北工業高等学校校長
柳橋 幸裕	郡山高等学校校長
藤東 喜史	あさか開成高等学校校長
荒 義紀	湖南高等学校校長
渡邊 幹男	須賀川創英館高等学校校長
亀田 光弘	須賀川桐陽高等学校校長
中島 正義	清陵情報高等学校校長
志賀 勲	岩瀬農業高等学校校長
近東 昇	白河高等学校校長
佐々木理夫	白河旭高等学校校長
浅野 猛	白河実業高等学校校長
安部 拓広	修明高等学校校長
小川 和英	石川高等学校校長
亀本 哲也	田村高等学校校長
田母神賢一	あぶくま柏鵬高等学校校長
矢崎 芳朗	あぶくま柏鵬高等学校小野校長
近東 昇	郡山萌世高等学校校長
矢崎 芳朗	白河第二高等学校校長
近東 昇	白河第二高等学校校長

大会実行委員③

安積高等学校	
川越 健司	来賓受付・接待 第三部会 世話役
金田 岩光	
根本 重朋	
千葉 麻邦	
平塚 康晴	
佐藤 裕文	
有田 耕治	
阿部 充正	
七宮 拓	
吉田 晋	
宗像 猛	

安積黎明高等学校	
三部 香奈	
西條 里美	
奈良 優子	
若林 亜以子	
鷺谷 恭子	
喜多見久美	
星 英一	

郡山東高等学校	
横田 淳	会場・祝電 第4分科会 発表
塙 由美子	
野崎 美里	
飯島 留美	
鈴木 伸康	
浅野 友子	
石原 真子	
永山季代子	
丸形 由	
矢吹 和子	
永山季代子	
丸形 由	
矢吹 和子	
菅野 正徳	
郡山北工業高等学校	
丹治 一記	会場 第1分科会 司会
あさか開成高等学校	
石巻 京香	全体会（司会、記録等） 第1分科会 世話役
菅島 慶子	
伊藤 道信	
猪狩 勝	
小山 沙織	
星 恵	
浅野 浩尚	
須賀川創英館高等学校	
小山智加江	講演会 第4分科会 司会
渡辺 和邦	
三木 純子	
石塚 順子	
井上 武	
藤田 大	
近藤 妙子	
金澤 勝敏	
清陵情報高等学校	
原 徳兆	駐車場・救護・警備 第5分科会 記録
明石 人嗣	
伊東由香里	
國道 美行	
今泉 敏幸	
大原 春夫	
白河高等学校	
小松 保晴	庶務 第3分科会 記録
白河実業高等学校	
佐藤 健	庶務 第4分科会 世話役
鈴木 康雅	
石川高等学校	
高橋 孝一	会場（祝電） 第2分科会 司会
田村高等学校	
遠藤 勇一	会場（掲示） 第3分科会 発表
榊原 育美	
吉田 義則	
菊地 聡子	
相良 要蔵	
郡山商業高等学校	
安部 秀人	教育懇談会 第2分科会 記録
宗方 孝雄	
杉原 千恵	
浮田 直希	
細山 郁夫	
黒澤由美子	
郡山高等学校	
遠藤 和博	一般受付 会計監査 第3分科会 司会
小松 純子	
遊佐 秀夫	
大河原信也	
宮田真知子	
羽田香世子	
遠宮 秋善	
米澤 真紀	
関 恵美	
滝田 典子	
和田 幸治	
加澤 敬二	
湖南高等学校	
星 大地	アトラクション 第5分科会司会
須賀川桐陽高等学校	
矢吹八代江	弁当 第1分科会 記録
松本留美子	
深谷 直子	
斎藤 文枝	
橋本 洋介	
吾妻 久	
岩瀬農業高等学校	
松井 美幸	会場 会計監査 第2分科会 世話役
先崎 菜千	
馬場 恵	
渡邊 里美	
芳賀 知美	
今村 勝也	
伊藤 一郎	
白河旭高等学校	
緑川 祐子	庶務 写真 第5分科会 発表
修明高等学校	
片野 雅教	駐車場・救護・警備 第5分科会 世話役
鈴木 保	
佐川 博文	
あぶくま柏鵬高等学校	
松本はるみ	来賓受付・接待 第4分科会 記録
笹岡のりこ	
佐藤由美子	
箭内 和彦	
田村 文	
渡邊 秀行	
仲 歩	
原田 紀子	
山崎 元康	
あぶくま柏鵬高等学校小野校舎	
藤井 巨之	受付（一般）

郡山萌世高等学校		
千葉 由紀	受付（一般） 第2分科会 発表表	
菅野 由佳		
大平 泉		
関根 里美		
高崎 聖子		

白河第二高等学校		
大和路基弘	会場（祝電）	
中山 舞美		
光南高等学校		
鈴木 恵美	総務 アトラクション 会計 第1分科会 発表表	
小林 和恵		
佐藤 有里		
鈴木 茂和		
小針 永子		
佐藤 五月		
植田 浩司		
五十嵐隆之		
石山 博恵		
安藤 留美		
松田 優之		